

岩手大学国際交流センター報告

第9号

岩手大学国際交流センター

2014 年1月

目 次

－教育部門 業務報告－

日本語研修コース実施概要.....	2
全学共通教育科目(日本事情／多文化コミュニケーション).....	4
日本語教育科目(国際交流科目／共通教育)実施報告.....	5
国際交流科目(主に英語による科目)実施報告.....	11
夏期休暇および個別日本語学習支援報告.....	13
短期留学生修了研究(個別研究)報告.....	15
北東北国立3大学合同合宿研修会報告.....	17
地域日本語教育支援事業報告.....	23
平成24年度新入生オリエンテーション報告.....	27

－国際企画部門他 業務報告－

平成24年度岩手大学 UURR プロジェクト報告.....	30
米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告.....	34
ヤングリーダーズ国際研修 in IWATE.....	36
海外留学支援事業報告.....	39
英語 ICT コンテンツを活用した教育プラットフォーム開発事業報告.....	41
平成24年度がんちゃん国際フォーラム講演会開催報告.....	45
平成24年度フィールドスタディ in 北上(工場見学)実施報告.....	49
平成24年度フィールドスタディ in 久慈(北部陸中海岸)実施報告.....	51
平成24年度フィールドスタディスキー in 安比実施報告.....	53
平成24年度国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組.....	55
平成24年度国際連携理事室 WG への参画.....	57
平成24年度学長と外国人留学生との懇談会記録.....	58
国際交流センターによる大学広報活動報告.....	60
キャンパスの国際化支援事業報告.....	68

－その他 業務報告－

地域への支援事業報告.....	71
-----------------	----

－資料－

国際交流センター組織図.....	74
平成24年度留学生関連行事.....	75

外国人留学生集計表	77
外国の大学との交流	79
平成24年度岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧	82
平成24年度海外学生受け入れ・派遣実績	83
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧	84
平成24年度岩手大学創立50周年記念事業実行委員会奨学金実施状況報告	87

—教育部門 業務報告—

日本語研修コース実施概要

1. コースの目的および受講対象者

日本語研修コースは、大学院入学前日本語予備教育プログラムで、500 時間の集中コースとして開講されている。受講対象となる学生は、岩手大学と近隣の大学の大学院へ進学する予定の留学生（大使館推薦の国費研究留学生および教員研修留学生）である。また、定員（8名）に余裕のある場合は岩手大学の留学生とその家族、岩手県立大学留学生とその家族も受講が許可される場合がある。

2. 授業スケジュール

	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
I (9:00～10:30)	総合日本語	総合日本語	コミュニケーション	総合日本語	総合日本語
II (10:30～12:00)	総合日本語	総合日本語	コミュニケーション	総合日本語	総合日本語
III(13:00～14:00)	漢字	漢字		漢字	漢字
IV(14:45～16:15)			チュートリアル		

3. 授業担当者

総合日本語・漢字：松林和美、宮淑、佐々木仁美、坂本淳子（非常勤）

コミュニケーション・チュートリアル：松岡洋子（専任）

4. 受講者およびスケジュール

（1）前期

<受講者>

名前	国・地域	所属等（進学先）
カマリ ラウモモ カティレワ	フィジー	岩手医科大学（国費）
ムコンデ ギャブリエル ジャコブ	タンザニア	岩手医科大学（国費）
サノン ブルーノ	ブルキナファソ	農学研究科（国費）
コイツウエ ケホモディ	ボツワナ	秋田大学工学資源研究科（国費）
張 イクフン	台湾	高雄師範大学交換留学生
イスラム モハマド アンワルル	バングラディシュ	農学研究科研究生

パラミント ヴィニチャイクルク	タイ	農学研究科研究生
ルクサナ ナヒド	バングラディシュ	家族滞在

<授業日程>

4月10日 オリエンテーション 4月11日 授業開始 8月3日 修了試験

(2)後期

<受講者>

名前	国・地域	所属等
モハンタ ウディ クマル	バングラディシュ	連合大獣医学科研究生(国費)
カレン セニ アレラ	ソロモン	教育学部教員研修生
アルノルダス ユアザイティス	リトアニア	教育学部教員研修生
マグディ アハマド エルサイド	エジプト	秋田大学教員研修生
黄 イテイ	台湾	高雄師範大学交換留学生
薛 ユショウ	中国	山東工芸大学交換留学生
スグラパ チャヤノーン	タイ	岩手県立大学研究生
ユウ モンポウ	中国	工学部研究生

<授業日程>

10月5日 オリエンテーション 10月11日 授業開始
12月22日～1月7日 冬休み 2月15日 修了試験

5. 成果と課題

少人数での集中講座であり、短期間に日本語の基礎力を高める効果が認められる。しかし、日本語教育終了後、専門教育にどのように移行するのかうまくいかないケースもあり、連携に課題が残った。

また、大使館推薦および大学推薦国費教員研修生のほか、昨年度より、交換留学生の受講者が増加傾向にあり、集中日本語教育の需要が高まっていることがうかがえる。なお、本学での秋田大学の日本語研修の受け入れは今年度で終了の予定である。

報告:松岡洋子

全学共通科目(日本事情／多文化コミュニケーション)

1. 日本事情 A・B

この授業では、外国人留学生在が日本で学びまた日常生活を営む上で役にたつ、日本に関する諸事情、諸文化事象等について講義する。具体的な項目は以下の通り。

- (1) 日本語の言語表現の特性
- (2) 日本人の精神と日本文化の特質
- (3) 日本の歴史、歴史上の人物、日本の思想
- (4) 政治・経済・地理・風俗・現代社会の諸問題等、現代日本の諸問題
- (5) その他、日本と日本人に関するあらゆる事柄、また日本と世界の関係など

担当:岡崎正道

2. 多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目として設定し、多文化社会におけるコミュニケーション課題をテーマに討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。合宿を実施すること、授業で討論を多く取り入れる関係上、受講生数を40名程度に制限して実施した。

前期は2年次および交換留学生在が主たる受講者である。二戸市教育委員会からの依頼により、3回目になる二戸市内の中学生(30名)と岩手山青少年交流の家で合同合宿を行った。合宿では多文化コミュニティでの課題(今年度は「避難所の揭示」)を与え、グループでの共同作業によって解決を図った。

後期は学部1年次および交換留学生在が主たる受講者で、まとめの段階で秋田大学、弘前大学との合同合宿を秋田青少年交流施設ユースパル(秋田)にて行った。合宿では、紙芝居作成の共同作業を通じて、多様なメンバーが集まるグループでの作業の進め方、自己の役割などについて体験を通じて学習した。(合宿については「北東北3大学合同合宿研修報告」参照)

担当:松岡洋子・尾中夏美

日本語教育科目(国際交流科目・共通教育)実施報告

1. 概要

国際交流科目日本語科目は、主に短期留学生対象の日本語教育が目的で設置され、初級、中級レベルの授業を提供している。共通教育外国語科目の上級日本語は、主に正規学部留学生を対象として上級レベルの授業を提供している。国際交流科目は交換留学生が、共通教育科目は定期留学生および交換留学生が単位取得できる。定員に余裕がある場合は、研究生、大学院生、研究員およびその家族等の受講も認めている。

2. 受講までの流れ

毎学期はじめに実施されるオリエンテーションへの参加を義務づけ、英語(尾中教員)および中国語(早川教員)の通訳を介し説明を行った。オリエンテーション終了後、工学部三輪教員開発のオンラインプレースメントテストによって初級2レベル、中級2レベル、上級1レベルの5レベルに分けた。オリエンテーション実施日、参加者数は以下の通りである。なお、オリエンテーションに参加できなかった学生には個別に対応した。平成23年度から、交換留学生は渡日前にオンラインプレースメントテストを受験させ、レベル分けを行い、早期に履修計画が立てられるよう便宜を図っている。

<前期>

4月 5日(木) 13:00-15:00 学生センターG37(CALL教室) 参加者 45名

<後期>

9月 27日(木) 13:00-15:00 学生センターG37(CALL教室) 参加者 48名

3. 授業概要

3.1 開講クラス

<国際国流科目日本語科目> *各学期共通(時間数は各学期のコマ数)

	科目名	内 容	時間数
初級Ⅰ	文 法	初めて日本語を学習する人が対象。初歩的な文法、語彙等を学習した。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	1
	読 解	初めて日本語を学習する人が対象。かなと簡単な漢字の読み、および簡単な文を読む能力を高めた。 テキスト:『げんきⅠ』(The Japan Times)	1

	会 話	初めて日本語を学習する人が対象。日常生活で使う挨拶や簡単な会話を学習した。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	1
	科目名	内 容	時間数
初級Ⅱ	文 法	日本語を 150 時間程度学習した人が対象。初級後半の文法、語彙を学習した。テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	2
	会 話	日常生活に役立つやや長いやり取りの会話を学習した。 テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)ほか	1
	漢 字	漢字300 字程度を学習した。テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	1
中級Ⅰ	中級Ⅰ 文 法	初級レベルの復習、および中級前半レベルの文法を学習した。 テキスト:(前期)『ニューアプローチ中級日本語基礎編』(日本語研究社) (後期)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』、『中級日本語文法整理ポイント20』(スリーエーネットワーク) *後半は中級Ⅱで学習	2
	会 話	日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話技能を学習した。 テキスト:『なめらか日本語会話』(アルク)	1
	読 解	アカデミックな文章の基礎的な読解力を高めた。 テキスト:『読解をはじめるあなたへ』(凡人社)	1
	作 文	アカデミックな文章(レポートなど)の基礎的な作成能力を高めた。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	1
	漢 字	中級前半レベルの漢字 300 字程度の読み書きを学習した。 テキスト:『INTERMEDIATE KANJI Vol.1』(凡人社)	1
中級Ⅱ	会 話	中級前半修了者対象。大学生活(研究室、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話技能を学習した。 テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	1
	読 解	やや高度なアカデミックな文章の読解力を高めた。 テキスト:ハンドアウト	1
	文 法	日本語能力試験N2程度の文法学習をした。	1
	作 文	やや高度な文章(レポート、小論文等)の作成方法を学んだ。 テキスト:ハンドアウト	1
	漢 字	大学の学習、研究に役立つ漢字・語彙の学習を行った。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語5 漢字・語彙編』(アルク)	1
	文系 日本語	文系に必要な基礎的な語彙・文系の知識を学んだ。 テキスト:ハンドアウト	1
	アカデミック	日本語能力試験N2合格のための学習を行った。	1

		テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク)	
上級	ビジネス	仕事で使う日本語表現を学習した。 テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	1
	アカデミック	日本語能力試験N1合格のための学習を行った。 テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク)	1
	計		22

＜全学共通教育外国語科目＞

	科目名	内 容	時間数
	上級日本語 A・E (口頭表現)	前期は討論および発表能力、後期は状況によって使い分けに焦点を当て、口頭表現能力を高めた。 テキスト:ハンドアウト	1
	上級日本語 B・F (読解)	授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力を高めた。テキスト:ハンドアウト	1
	上級日本語 C・G (文系)	前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現について能力を高めた。テキスト:ハンドアウト	1
	上級日本語 C・G (理系)	実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力を高めた。テキスト:ハンドアウト	1
	上級日本語 D・H (論文作成)	大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成力を養成した。 テキスト: (前期)大学・大学院留学生の日本語4論文作成編(アルク) (後期)大学生のための論理的文章の書き方(スリーエーネットワーク)	1
	計		5

＊時間数は各学期分。A, B, C, D は前期、E, F, G, H は後期開講科目。

＊理系は農、工学部正規留学生は必修としている。

＊国際交流科目として「上級日本語アカデミック」「上級日本語ビジネス」「中級日本語Ⅱアカデミック」の3科目を新たに開講し、学生のニーズに応えた。

4. 実施状況

大学の学期スケジュールに従い、毎学期 15 週の授業を実施した。平成24年度は、留学生のニーズを勘案し、初級クラスの授業数を削減し、中級Ⅱクラスおよび上級クラスを増

加させた。特に中上級では、日本語能力試験対策、ビジネス日本語学習のクラスを開設し、資格に結びつく学習を行った。また、本学の協定大学であるアメリカのアーラム大学 SICE プログラム(盛岡市教育委員会とアーラム大学との協定による英語教育インターンシッププログラム)の学生を後期の授業で前半7週間受け入れた。各学期の時間、担当者、受講者数は以下のとおりである。

* 表中受講者数の「特別」は単位取得しない大学院生、研究生、家族等の受講者、「国際」は「国際交流科目」として単位を取得する履修者、「共通」は「全学共通教育科目」として単位取得する履修者数を表す。

<前期> (4月11日～8月3日)

科目名	時 間	担 当	受講者数		
			単位無	国際	共通
初級日本語Ⅰ文法	月 3・4	佐々木仁美	2	2	
初級日本語Ⅰ読解	金 3・4	大高久枝	2	2	
初級日本語Ⅰ会話	火 3・4	佐々木仁美	2	2	
初級日本語Ⅱ文法	月木 1・2	大高久枝・大畑佳代子	2	3	
初級日本語Ⅱ漢字	木 3・4	大畑佳代子	2	3	
初級日本語Ⅱ会話	月 3・4	大高久枝	2	3	
中級日本語Ⅰ文法	月木 1・2	松岡洋子	3	3	
中級日本語Ⅰ会話	水 5・6	尾中夏美	2	3	
中級日本語Ⅰ作文	火 5・6	宮 淑	2	2	
中級日本語Ⅰ読解	水 7・8	橋本学(人文社会科学部)	2	3	
中級日本語Ⅰ漢字	月 3・4	尾中夏美	2	3	
中級日本語Ⅱ文法	水 3・4	加藤理恵	2	5	
中級日本語Ⅱ会話	月 5・6	宮 淑	2	4	
中級日本語Ⅱ読解	金 5・6	岡崎正道	2	8	
中級日本語Ⅱ作文	火 5・6	加藤理恵	2	6	
中級日本語Ⅱ漢字	金 1・2	大高久枝	1	11	
中級日本語Ⅱ文系日本語	月 3・4	岡崎正道	1	8	
中級日本語Ⅱアカデミック	木 7・8	宮 淑	3	11	
上級日本語ビジネス	月 5・6	坂本淳子	3	13	
上級日本語アカデミック	水 5・6	坂本淳子	3	5	

上級日本語(口頭表現)	月 7・8	松岡洋子	2		11
上級日本語 B 読解	水 9・10	岡崎正道	1		12
上級日本語 C 文系	木 5・6	加藤理恵	2		8
上級日本語 C 理系	金 1・2	照井啓介	0		5
上級日本語 D 論文作成	金 3・4	菊地悟 (教育学部)	2		10
合 計	時 間	受講者計	49	100	46
			195		

<後期> (10月3日～2月10日)

科目名	時 間	担 当	受講者数		
			単位無	国際	共通
初級日本語 I 文法	水 1・2	加藤理恵	2	2	
初級日本語 I 読解	金 3・4	大高久枝	2	3	
初級日本語 I 会話	水 3・4	大高久枝	2	4	
初級日本語 II 文法	月木 1・2	大高久枝・大畑佳代子	5	4	
初級日本語 II 漢字	木 3・4	大畑佳代子	2	4	
初級日本語 II 会話	月 3・4	大高久枝	2	4	
中級日本語 I 文法	月木 1・2	松岡洋子	7	10	
中級日本語 I 会話	木 3・4	尾中夏美	7	10	
中級日本語 I 作文	火 9・10	宮 淑	4	13	
中級日本語 I 読解	水 3・4	橋本学 (人文社会科学部)	2	9	
中級日本語 I 漢字	月 3・4	尾中夏美	5	9	
中級日本語 II 文法	水 3・4	加藤理恵	2	6	
中級日本語 II 会話	月 5・6	宮 淑	3	5	
中級日本語 II 読解	金 5・6	岡崎正道		11	
中級日本語 II 作文	水 3・4	加藤理恵	3	2	
中級日本語 II 漢字	金 1・2	大高久枝	3	3	
中級日本語 II 文系日本語	月 3・4	岡崎正道	2	5	
中級日本語 II アカデミック	木 7・8	宮 淑	7	4	
上級日本語ビジネス	月 5・6	坂本淳子	3	7	
上級日本語アカデミック	金 7・8	坂本淳子	4	2	
上級日本語(口頭表現)	月 7・8	松岡洋子	4		6
上級日本語 B 読解	水 9・10	岡崎正道	3		16

上級日本語 C 文系	木 5・6	藪敏裕ほか (教育学部)	2		10
上級日本語 C 理系	金 1・2	照井啓介	0		5
上級日本語 D 論文作成	金 3・4	大野眞男 (教育学部)	2		15
合 計	時 間	受講者計	33	117	52
			202		

受講数合計は延人数

5. 問題点・課題

平成24年度から、オリエンテーションを学期開始前に行い、短期交換留学生もそれに合わせて来日するようになったため、大学の学期のカレンダーに合わせて授業を進めることができるようになった。しかし、国費留学生、研究生などは学期が始まってからの来日が多く、授業開始に間に合わない例も見られた。また、初級クラスは、受講生が少なく、研究員、家族などが途中で履修を放棄することもあり、クラスの設定について再考が必要である。

また、平成24年度は非常勤講師1名が前期いっぱい退職し、後期には非常勤講師の担当授業割り振りの変更があった。日本語担当教員は専任が昨年度退職したまま補充がなく、非常勤講師が引き続き担当しているが、授業のコーディネーション等で支障をきたすことがあり、現有の体制を継続する場合、授業構成、時間数の見直し等が必要である。

報告: 松岡洋子

国際交流科目(主に英語による科目)実施報告

1. 概要

国際交流科目は交流協定大学からの交換留学生を主な受講対象として実施され、日本人を含む正規学部生も単位取得可能な科目群である。

2. 実施状況

平成 24 年度の開講状況は以下のとおりである。昨年度、教員の退職により3科目減少したが、学外非常勤講師を新たに2名任用し、新科目を 3 科目開設した。また、隔年開講の「国際合宿」(ヤングリーダーズ国際研修)を実施した。

<前期;4月11日～8月3日> (国際交流科目として登録者のあった科目のみ記載)

曜日	タイトル	単位	担当教員	受講
月 9-10	Intercultural Non-Verbal Communication	2	ステイリン	6
火 7-8	Ancient Japan: adoption and adaptation	2	カールキビスト	2
集中	Iwate Studies	2	尾中夏美	6
集中	個別研究	2	松岡・尾中	14

<後期;10月1日～2月8日>

曜日	タイトル	単位	担当教員	受講
火 5-6	Discovering Japanese Culture and Japanese Psychology	2	齋藤博次	5
火 9-10	Japanese traditions in a global perspective	2	カールキビスト	5
水 5-6	やさしい日本語で語る日本の古典文学	2	家井美千子	10
水 7-8	Cultural Domains	2	アンハー	6
金 1-4	School internship Program	2	山崎友子 James Hall	2
集中	Iwate Studies	2	尾中夏美	6
集中	個別研究	2	松岡・尾中	14
集中	国際合宿(ヤングリーダーズ国際研修)	11	松岡・尾中	24

3. 課題と今後の展望

大学教育総合センターと協議を続けた国際交流科目のあり方に関する検討は、実質的な結論を得ないまま終了した。英語による授業科目の担当教員の確保が困難であるが、日本人学生との共修科目としての位置づけも高まっており、「英語で履修する教養科目」の位置づけで、全学共通教育科目としての実施の可能性も含め、継続的な検討が必要である。

報告：松岡洋子

夏期休暇および個別日本語学習支援報告

1. 概要

夏期休暇日本語補講は学期中の通常クラスに参加できない学生や、通常クラスで学習したことを復習したい学生を対象として開講し、アールム大学SICEプログラム学生の前半日本語教育としても活用した。また、学習者の個別ニーズに対応するため、ボランティア学生による補講を実施した。各クラスの内容は以下のとおりである。

①夏期休暇日本語補講初級Ⅱ予備クラス

期間：2012年8月27日～9月13日 9:00～12:00（全6日12コマ×2クラス）

対象：初級前半修了者、初級修了者、アールム大学SICEプログラム(7名)、研究生3名

<内容・スケジュール>

	初級前半終了クラス		初級終了クラス	
	内容	担当	内容	担当
8月27日	漢字1(げんき review 1-3)	大高 久枝	聴解1(許可・禁止)	宮 淑
	聴解1(げんき review 1-3)	佐々木仁美	漢字1(動詞)	坂本 淳子
8月30日	文法1(げんき review 1-3)	佐々木仁美	文法1(条件)	宮 淑
	聴解2(げんき review 4-6)	加藤 理恵	聴解2(授受)	坂本 淳子
9月3日	漢字2(げんき review 4-6)	大高 久枝	漢字2(形容詞)	大畑佳代子
	文法2(げんき review 4-6)		文法2(授受)	坂本 淳子
9月6日	聴解3(げんき review 7-9)	大畑佳代子	聴解3(使役・受け身)	松林 和美
	漢字3(げんき review 7-9)		漢字3(位置・方向・量)	加藤 理恵
9月10日	文法3(げんき review 7-9)	大高 久枝	文法3(受け身)	加藤 理恵
	漢字4(げんき review 10-12)		漢字4(学校・科目)	
9月15日	文法4(げんき review 10-12)	大畑佳代子	文法4(N4トリアル)	松林 和美
	聴解4(げんき review 10-12)		聴解4(助言)	

②個別学習支援

日本語の個別学習を希望する学生に対して、学生ボランティアによる個別学習支援を行った。

期間：2012年5月下旬～2月初旬

対象:日本語研修コース学生3名、研究生3名

担当:人文社会科学部2年次5名

2. 成果と課題

夏期休暇補講は SICE プログラム学生も参加して開講したが、今年度は昨年同様、初級前半終了、初級終了の2レベルで文法、漢字、聴解の復習を行った。昨年度まで補講として実施していた日本語能力試験対策補講は国際交流科目として単位化して実施した。

また、学生の個別ニーズに対応し、学生ボランティアによる個別学習支援を行った。個別学習支援については、大学院受験準備等、高度な要望が多く、ボランティア学生の確保が困難である。本来、チューターが対応してほしい内容で、各研究室との調整が必要である。

報告:松岡洋子

短期留学生修了研究(個別研究)報告

1. 研究リスト

短期留学生に対する必修科目として「個別研究」を課した。平成 24 度は 28 名(前期 14 名、後期 14 名)が、留学の研究成果のまとめとして、以下のような研究を行った。

前期		
氏 名	所属	研究課題
GRELET BERANGERE	フランス・ ボルドー第 3 大学	日本人のパリのイメージ
FELDMAN JOY	フランス・ ボルドー第 3 大学	同性愛を表現する現代の日本の映画
LOUP SOPHIE	フランス・ ボルドー第 3 大学	宮崎駿の映画の監督に表れる ヨーロッパのイメージ
TITOVA ANASTASIIA	ロシア・サンクト・ペテル ブルグ国立文化芸術 大学	ヨーロッパと日本との非言語コミュニケ ーションの比較
BEREZHNYKH MARIIA	ロシア・サンクト・ペテル ブルグ国立文化芸術 大学	日本の伝説と幽霊スポット
VLADIMIROVA LIUBOV	ロシア・サンクト・ペテル ブルグ国立文化芸術 大学	最高の接客サービス
RINGSTED JOHANN LIND	アイスランド大学	日本における同性愛者に対する意識
崔 振雪	中国・寧波大学	長崎中華街の春節祭
郭 新宇	中国・寧波大学	なぜ日本のサッカーが強くなったか
閆 晓娣	中国・西北大学	なぜ日本人は国内産にこだわるのか
劉 安荻	台湾・高雄師範大学	青森のお土産のパッケージに関する デザイン性について
GLACET MATHIEU	米国・テキサス大学	岩手の廃墟

SUTHERLAND ALLISON	米国・テキサス大学	ただの一人称ではない！ 日本語の一人代名詞意識調査
-----------------------	-----------	------------------------------

後期		
氏 名	所属	研究課題
張 燕	中国・曲阜師範大学	日本語の「猫」に関することわざの意味分析
張 皓炯	韓国・明知大学	日本旅行の必需品:JR Pass
ユン スンソップ	韓国・明知大学	日本のビールに対する日本人と外国人の意識の研究
黄 眞率	韓国・明知大学	日本人の大学生活
趙 郁フン	台湾・高雄師範大学	日本の公共トイレデザイン心理学
鐘 賽君	中国・新疆農業大学	モタリング法による小型2ストローク機関のピストンスラップ現象に関する研究
呂 慧云	中国・曲阜師範大学	日本の祭りの意味
王 佳卉	中国・寧波大学	日本企業内教育の変遷と今後のあり方
呉 小姫	中国・寧波大学	東日本大震災から見る日本企業のリスクマネジメントー自動車業界におけるサプライチェーンの寸断を中心にー
陳 恬圓	中国・寧波大学	日本語学習者に対する擬声擬態語の養成法について
金 信元	韓国・群山大学	野口英世に関する評価の昔と現在
莊 育軒	台湾・高雄師範大学	折り合いー折り紙の表現、鉄で
高 書金	中国・曲阜師範大学	私から見た日本人
Hankin Adam	米国・ノースセントラル・カレッジ	日本の相撲

国際交流センター担当教員(尾中、松岡)が修了発表までのスケジュールを提示し、指導教員の助言のもとに個別研究を進め、口頭発表用資料作成および最終レポート作成指導を行った。修了発表会には、指導教員、チューターをはじめ、関心のある学生が参加し、発表に対する質疑応答が行われた。

報告:松岡洋子

北東北国立3大学合同合宿研修会報告

1. 実施概要

秋田大学、岩手大学、弘前大学では、留学生教育の連携を図ることを目的とし北東北3大学合同合宿が平成 16 年度から行われている。今年度は第9回目となり、秋田大学を幹事大学として次のような内容で実施された。岩手大学は「多文化コミュニケーション B」の履修者が参加対象となった。

期 間：2012 年 11 月 23 日(金)～11 月 24 日(土)

場 所：秋田県青少年交流センター(ユースパル秋田)

内 容：多文化グループによる創作活動

参加大学：秋田大学 28 名(留学生 23 名、日本人学生 3 名、引率 2 名)

弘前大学 19 名(留学生 10 名、日本人学生 8 名、引率1名)

岩手大学 31 名(留学生 21 名、日本人学生 8 名、引率 2 名) 計 78 名

2. 研修概要

＜研修の目的＞

多文化状況におけるコミュニケーションに必要な知識、技能や具体的な課題について参加者に体験的に学ばせることを目的とする。

＜研修内容＞

アイスブレイク、交流ゲーム、共同作業(グループでの紙芝居作成)を行い、多様な背景のメンバーと接触し、目的、目標をもった話し合い、協働作業の機会を提供した。

2.1 合宿の様子

1泊2日の短期間の研修だが、3大学の学生交流の機会はほかになく、他大学の多様な出身の学生同士が交流できる貴重な機会となった。岩手大学にとっては秋田での開催は移動距離が長くなるため、時間的な負担が大きい。往復での時間にも学生同士で普段できない話ができたようで、この時間も有意義に使われた。学生の反応についてはアンケートを参照。

3. 今後について

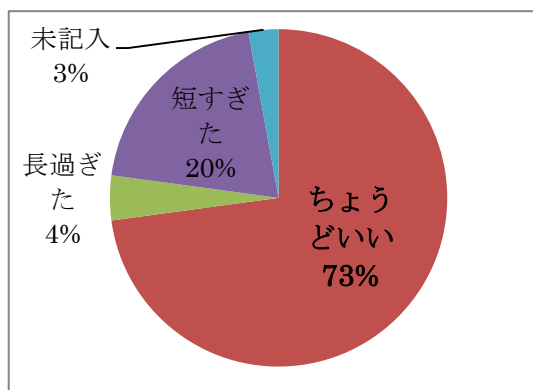
3大学の協議により本合宿は継続開催が了承された。特定の教員に負担があることや、

授業として単位化されている大学と単位化されていない大学があることなどの課題が残るが、3大学の連携を継続し、より多様な交流の機会を提供したい。

報告:松岡洋子

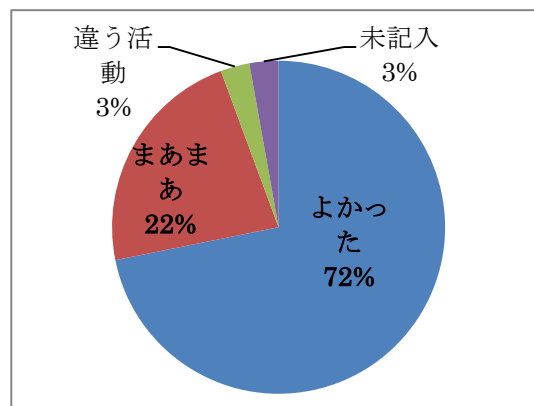
2012 年度北東北 3 大学合同合宿研修アンケート結果

問 1 時間の長さ



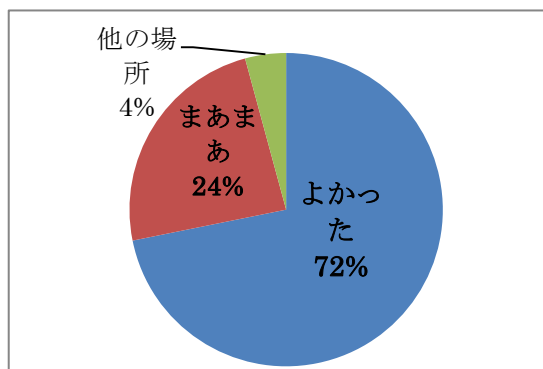
*2泊3日を希望する意見が2割あった。弘前、岩手は移動に時間がかかるため、実質活動時間は丸1日に留まったためと思われる。

問 3 研修内容全体の感想



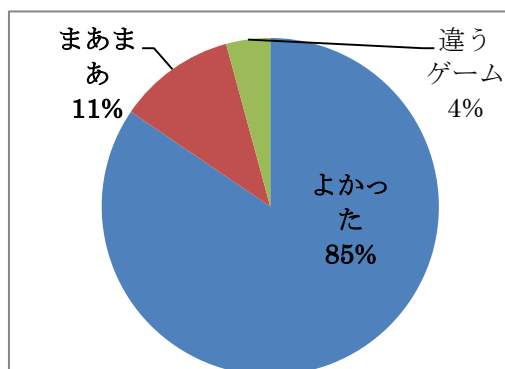
*研修の内容は大多数が満足している。秋田、岩手は授業の一環として実施しており、内容にもともと関心のある参加者が多いためと考えられる。

問 2 会場



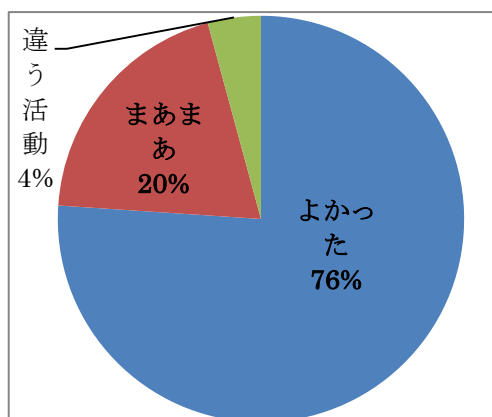
*「遠い（移動に時間がかかりすぎる）、食事が足りない、という意見が目立った。3大学持ち回りで会場を設定しているが、3大学間の距離があるため、移動時間がかかる。中間地点での実施を、という希望もあるが、適当な場所がないことが悩みである。

問 4 研修（コミュニケーションゲーム）



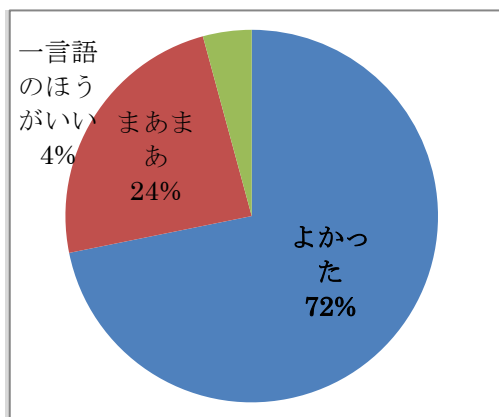
*言語的交流、身体活動タイプの交流を希望する意見があった。来年度以降、ゲームの準備に時間をかけて、より多様な交流ができるものにしたい。

問5 活動（紙芝居）



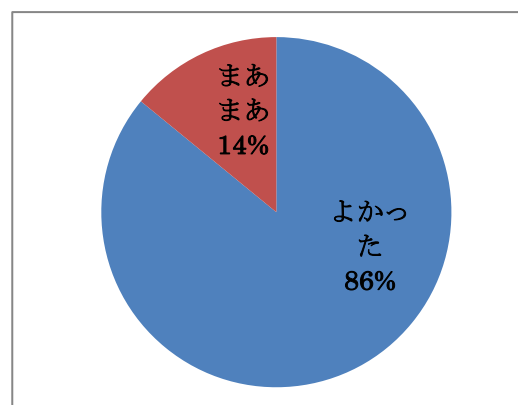
*活動グループ内だけのコミュニケーションになったことに対する不満の声があった。少数でじっくり接触する時間と、多くの人との交流の時間のバランスについて検討の余地があるだろう。

問6 日英2言語による活動



*留学生から、「日本語だけのほうがいい」という意見が複数あった。各大学で参加者の日本語能力に差があったこと、合宿（授業）の位置づけ（意義）が異なることから、参加学生の姿勢も違う。二言語併用の意義について、学生の理解を深める働き掛けがより求められる。

問7 他大学との交流活動



自由意見

- ・もう一回！
- ・Very fun experience!
- ・他の大学との活動合宿プログラムが増えたらいいと思います。
- ・I think that there kind of activities are very Good. I hope more can be done in the future.
- ・全体を通しては楽しい活動だった。グループの人とは仲良くなったが、他の人と話す機会が少なかったのが残念。もう少し全体で活動できたら尚更良かったと思う。
- ・もっと企画があればいいと思う。結局二つしかないのはちょっとだけものたりない。
- ・日本語とその他の言語（英語以外）だけ話せる人と意志疎通する時、少しつらかった。日本語でもうまく通じず、だからといって英語で説明もできず、少しとまどった。加えて提案ですが、もう少し体を動かすゲームを加えたほうがいいのかと感じました。私のグループメンバーが体を動かしたがっていたので…。
- ・時間はちょっと短くて、食事の量は足りない時もあります。皆さんとの交流はまだ足りないと思います。みんな一緒にコミュニケーションのチャンスはもっとほしいです。で

も、やはりこの二日間は楽しかったです。

- 夜にはお酒を飲んだほうが良いと思う。そして今回の Camp は本当によかったが、先生方と communication ができなかったのもっとのしめるはずだったのに残念だ。先生方の間の意見やおっしゃってることも違うし、何より何かについて分からないまましているという考えをした。特に最後のプレゼンテーションではホンマに失望した。進行が下手だ。
- とてもたのしかった。
- とても疲れました。（良い意味で）前期の時のように夜パーティーをしたかった。でも、ランプはしたのでよかったかな（笑）
- 他の大学の人や、日本人以外の人と関われるいい機会だと思いました。
- 食事は前期の岩手修練センターよりちょっとおいしくないと思います。すみません。
- 食事が前期の岩手青少年修練センターよりちょっとおいしくなかったです。
- 1 日目の昼ご飯、2 日目の昼ご飯が少なかった。おかわり出来る食事にして欲しいです。
- This camp was very good experience, this should be a little longer thought.
- Free time for chatting other
- 外国人は日本語で積極的に話しかけられた方が勉強になってうれしいのか、英語の方がわかりやすいから英語の方がいいのかどちらなのでしょう？
- In my group I was the only one who spoke fluent English, and I don't know much Japanese yet, so there was a bit of trouble in communicating. Sometimes the ideas couldn't be well understood.
- Everything worked out at the end, but it would have been better if the group had at least a few English speakers.
- The whole thing felt a little bit too short. I would've preferred to have it a little

longer and focus on more than one group activity.

- 2 日間という短い時間でしたが、充実した楽しい時を過ごせました。日本人以外の学生と外泊するのは初めての経験でしたが、貴重な体験でした。企画して下さい、ありがとうございました。
- ほかのグループのパーフェクトに近い作品を見たら、やっぱり 1 人だけの考えでここまでいい出来栄えができなくて、みんなの考えを組み合わせ、いいアイデアどんどん湧いてきたんじゃないかなって。その過程で、いっぱい話し合っただけでコミュニケーションしなくちゃいけないし、コミュニケーションはその鍵じゃないかなって。
- The activity was great. If only it could be longer!!
- このような国際交流プログラムに参加するのは初めてでしたが楽しめました。班のメンバーとも沢山話せて良かったです。別の班や部屋だった人とももっと話しが出来たら良かったなと思います。
- ご飯の量が足りなかった。すべてのメニューがおかわりができたらいいと思う。
- 普段外国の人と交流できる機会がありませんので、こういう機会があつて良かったです。内容的にもとても身になり、楽しむこともできて、充実した 2 日間だった。
- 私達イスラム教の人に特別なへやを準備したりして、本当にありがたいです。そうしたら、私達ムスリムは他の人のようにこの合宿をたのしむことができました。We the Islam people are very grateful because willing to prepare us special rooms and foods with all of that, we really enjoyed this camp with everybody else.
- ice-breaker ゲームと紙芝居だけでなく、もっといろいろな活動がほしいと思います。でも、いろいろな国の人と集まって楽しめて良かったです。お金を支援してくださった大学にも感謝しております。

- 施設もいいし、きれいなことはよかったけど食事のときおかわりができないことが残念だった。
- 自由時間はちょっと短い。秋田であちこちへ行きたい所はありますけど時間は短い。
- I absolutely loves it! I wish I would come again!
- The teacher without hair got angry with students at lunch yesterday. I don't think it's good for him to do that.
- 食事足りないです。
- たくさんの人と交流できるととても良い機会でした。

地域日本語教育支援事業報告

1. 事業の趣旨

本事業は、岩手大学国際交流センターの中期計画および年度計画に基づき実施する地域貢献事業である。平成 24 年度は、昨年度に引き続き外国出身の子どもや移民的背景を持つ子どもたちの日本語及び教科学習支援に関わる事業、および東北地域の日本語学習支援関係者の情報交流を目的とした日本語学習支援ネットワーク会議を実施した。

2. 事業内容

2.1 子どもの学習支援事業

A. いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日 時：平成 24 年 6 月 5 日(月)15 時～16 時 30 分

場 所：岩手大学事務局第一会議室

参加者：岩手県教育委員会学校教育課指導主事 小野寺 哲男

二戸市教育委員会 学校教育課長 欠端 秀治

盛岡市教育委員会 学校教育課指導主事 菅原 文江

一関市教育委員会 学校教育課指導主事 山崎 健志

(財)岩手県国際交流協会 事務局長 稲田 収

いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ代表 村井 好子

ゆうの会代表 熱海 アイ子

岩手県 NPO・文化国際課主査 川村 一弘(オブザーバー参加)

岩手大学教育学部 教授 新妻 二男(議長)

岩手大学国際交流センター長 壽松木 章

岩手大学国際交流センター 准教授 松岡 洋子

岩手大学国際課長 上杉 明(事務局)

<協議内容>

1. 平成 23 年度いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会関連事業報告

2. 平成 24 年度いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会関連事業計画案および後援の承諾について

- ・外国人児童生徒指導者支援者研修会(11 月 9 日:県教委主催)
- ・多文化キッズキャンプ(冬季:岩手県国際交流協会共催)

- ・人材バンクは現在、岩手大学国際交流センターで管理しているリストを岩手県国際交流協会に移管し、人材登録および情報提供を行う。
- ・初期日本語指導用教材(数冊)を今年度は一関市教育委員会に配架する。
- ・その他、例年と同様の事業を実施する。

3. 多文化的背景のある児童生徒の実態調査実施協力について

- ・県教委が現在実施中の日本語指導が必要な児童生徒調査の結果を活用し、当該児童生徒の在籍学校の関係教職員に実態調査を依頼する。調査時期は本年度中。学校での指導状況と課題について松岡が訪問調査を行い、結果を調査対象校、教育委員会、協議会等に報告する。

4. 意見交換

- ・日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導のあり方について、現在、文部科学省に検討会を設置され検討が行われている旨、情報提供があった。
- ・盛岡市教委では、外国人児童生徒の受け入れについて複数部署で必要情報が横断的に共有されるように今後、調整を図ることを検討中。
- ・一関市内には、生活言語は問題ないが、学習言語能力に課題がある児童生徒が見受けられる。外国人あるいは外国人の親がいる子どもの実態が把握しにくく、対応が難しい。
- ・二戸市内では、現在日本語指導を行っている児童生徒はいない。必要な場合は、NPO の協力を得て指導が行われている。(その他、意見3件)

B. 平成 24 年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日 時: 2012 年 11 月 9 日(金)10:00-16:30

場 所: 岩手県庁盛岡地区合同庁舎 12階特別会議室

主 催: 岩手県教育委員会 岩手大学国際交流センター

後 援: いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会

参加者: 30 名

内 容:

1. 基調講演「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導のあり方」

講師 文部科学省日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実のための検討
会委員・愛知淑徳大学非常勤講師 松本一子氏

2. 事例報告 奥州市立胆沢愛宕小学校 佐々木充氏

盛岡市立上田小学校 島守由貴氏

ゆうの会 熱海アイ子氏

3. ラウンドテーブル:参加者によるグループ別意見交換およびまとめ

C. 多文化キッズキャンプ(岩手県国際交流協会共催事業)

日 時:2013 年1月 12 日(土)～13 日(日)

場 所:岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢村)

参加者:子ども 21 名(中国 12、韓国1、フィリピン 4、パキスタン 2、ネパール1、インドネシア1)

留学生 5名(中国 3、インドネシア1、タイ1) 日本人学生6名

保護者 4名 外部講師3名 スタッフ8名 計 47 名

内 容:合宿形式の研修会。初日は昼食後、雪あそび、個別学習、交流ゲーム、2 日目は個別学習、絵本読み聞かせ、手遊び等を行った。

*昨年に引き続き、岩手県内(盛岡、二戸、一関地区)に加え、八戸、仙台、福島からも参加し、交流が定着した。

*経費は岩手県国際交流協会と科学研究補助金(代表:帝京大学 土屋千尋氏)、参加者会費により支弁した。

D. 指導実態聞き取り調査

・科学研究補助金による研究と共同で、各教育委員会、学校の協力を得て、外国人児童生徒の在籍校(小学校 4 校、中学校 3 校)の指導担当者に聞き取り調査を行い、実態及び課題を把握した。

<成果と課題>

協議会、合宿、指導者研修会などが定例化し、さらに、合宿では被災4県の子どもたちが集う機会となり、交流が拡大した。また、協議会、指導者研修会では、実質的な意見交換が定例化し、ネットワーク機能を果たしている。事業にかかる経費の確保にはまだ課題が残るが、岩手県国際交流協会では合宿経費の一部を負担するようになり、進捗が見られた。これらの事業は継続の要望が大きく、大学として外国人児童生徒の学習支援事業にどのようにかわるか、教育学部とも連携して検討していく必要がある。また、関係機関との連携も引き続き図っていくことが重要である。

2.2 日本語学習支援情報交流事業

日本語学習支援ネットワーク会議 12 in 仙台

日 時: 2012 年 12 月8日(土) 10:00-16:30

場 所: 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)

主 催: 日本語学習支援ネットワーク会議 12 in 仙台実行委員会

共 催: 岩手大学国際交流センター、(公財)宮城県国際化協会、宮城教育大学

附属国際理解教育研究センター、(財)仙台国際交流協会

参加者：100名

内容：1. パネルセッション

「ポスト 3・11 の沿岸被災地の日本語教室－これからの役割・つながりについて」

2. 文化庁報告

「生活者としての外国人のための日本語教育事業について」

3. ラウンドテーブル

＜成果と課題＞

平成17年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、岩手大、東北大、宮城教育大、山形大、秋田大、福島大の東北地区6国立大学のネットワークを活用し、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関の情報交流を継続している。大学が本事業を主催することにより、行政、民間をつなぐ役割を果たしている。今年度は昨年度に引き続き東日本大震災と地域の日本語教育の役割について情報交換を行った。パネルセッション、ラウンドテーブルでは、地域在住外国人も登壇し、日本語を学習する立場からの発言を得たことは、今年度の大きな特徴である。また、大学、国際交流協会、民間支援団体の連携がこの会議を通じて強化されたことも大きな成果である。なお、平成25年度は9月に山形県国際交流協会、山形大学が共催することが決定された。また、青森県国際交流協会が参加を検討しているという情報もあり、次年度以降に連携が拡大することが期待される。

報告：松岡洋子

平成 24 年度新入生オリエンテーション報告

1. 実施したオリエンテーション等(前期及び後期にそれぞれ実施)

・留学生オリエンテーション

新入生に必要な手続および日本での生活や履修登録等について説明するとともに、盛岡市からごみの分け方・出し方のルール、盛岡西警察署から生活上の注意点について説明があり、安全・快適な新生活をスタートさせる一助とした。

・国際交流会館オリエンテーション

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルールおよび寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居者の自己紹介の時間とし、入居者相互の交流の場とした。

・ライブラリーツアー

学内の図書館の使用方法的説明および学内でパソコンを利用する際のユーザ ID 及びパスワードの設定を行った。説明は図書館職員が行い、国際交流センター教員が英語および中国語の通訳を同時に行った。

2. 各種オリエンテーション等の実施日程等

2.1 前期

(1) 留学生オリエンテーション

日 時:平成 24 年 4 月 10 日(火) 13:30～15:00

会 場:学生センターB 棟1階 多目的室

対象者:30 名

(2) 国際交流会館オリエンテーション

日 時:平成 24 年 4 月 12 日(木) 18:10～19:00

会 場:国際交流会館 2 階 集会室

対象者:36 名(国際交流会館入居者)

(3) ライブラリーツアー

日 時:平成 24 年 4 月 10 日(火) 15:30～16:30

会 場:図書館

対象者:30 名

2.2 後期

(1) 留学生オリエンテーション

日 時:平成 24 年 10 月 5 日(金) 16:30～18:00

会 場:学生センターB 棟 1 階 多目的室

対象者:35 名

(2) 国際交流会館オリエンテーション

日 時:平成 24 年 10 月 10 日(水) 18:10～19:00

会 場:国際交流会館 2 階 集会室

対象者:36 名(国際交流会館入居者)

(3) ライブラリーツアー

日 時:平成 24 年 10 月 9 日(火) 16:30～17:30

会 場:図書館

対象者:35 名

— 國際企画部門 業務報告 —

平成 24 年度岩手大学 UURR プロジェクト報告

1. UURR プロジェクトチーム

岩渕 明 理事(地域連携・国際連携担当)・副学長/プロジェクトリーダー
壽松木 章 国際交流センター長・農学部教授
藪 敏裕 教育学部教授
平原 英俊 工学部准教授
小野寺純治 地域連携推進センター教授
対馬 正秋 地域連携推進センター教授
早川 智津子 国際交流センター准教授
佐藤 貢 研究交流部長
上杉 明 研究交流部国際課長
崔 華月 研究交流部国際課外国語専門職員
石沢 友紀 研究交流部国際課主査
佐藤 裕文 研究交流部研究協力課主任(地域連携推進センター知的財産移転部門)

2. UURR プロジェクトの趣旨

成長著しい中国においては、産学連携が経済発展の一翼を担っている。他方、日本の産業界は市場の将来性を展望し、改めて中国への技術・資本の進出を開始しようとしている。

本学では、学長特命プロジェクトとして、平成 15 年度より、これまでの学術交流及び地域連携の成果を踏まえ、国際的な大学間ネットワークを活用した地域企業の国境を越えたビジネス・チャンスの場を造り出し、地域経済の発展に寄与するための事業(University and University+Region and Region=大学・大学と地域・地域の連携事業:UURR プロジェクト)を推進してきたところである。

3. 平成 24 年度における UURR 事業

3.1 大連理工大学との UURR 事業

(1) これまでの経緯

岩手大学は、大連理工大学との学術交流協定(平成 17 年 5 月 23 日締結)に基づき、平成 18 年 4 月に大連理工大学内に両大学共同出資の「大連理工大学・岩手大学国際連携・技術移転センター」を開設した。また、本事業推進のため、岩手大学内において、「岩手大学・大連理工大学国際連携・技術移転室」(以下、「技術移転室」

と呼ぶ。)を設置し、大連理工大学(中国大連地域)と本学の研究成果の技術移転を主目的として鑄造分野での技術移転や IT 分野での国際共同研究、研究者交流、学生交流、さらには日本貿易振興機構(ジェトロ)の支援による企業交流などの実績をあげてきた。

しかしながら、社会情勢の変化に伴い、これからの両大学の連携のあり方は、単に技術移転に留まるものではなく、イノベーションをもたらす国際共同研究の実施、その成果を活用した両地域の産業振興や地域活性化とそれに貢献できる国際的な産業技術人材の育成など、新たな国際連携を展開していく段階にきたことから、大連理工大学内に設置していたセンターを両大学の人的交流主体の組織体制に変更し、「日本国岩手大学・中華人民共和国大連理工大学科学・技術連携センター」として改組し、これまでの交流を通じて構築された同大学との相互理解と人的ネットワークの深化や、岩手県及び関係自治体の大連地域とのこれまでの交流実績を踏まえ、引き続き大連地域を対象として、UURR プロジェクト事業の展開を目指していくこととなった。平成 23 年度に、本件について両大学で協議を重ねたうえで、平成 24 年 3 月に新たなセンターの協定を締結した(同年 4 月 1 日発効)。以下、平成 24 年度の活動について報告する。

(2) 新たなセンターの立上げ及び「アジア国際金型教育研究コンソーシアム」設立協議

- ①上記のとおり、日本国岩手大学-中華人民共和国大連理工大学科学・技術連携センターを 4 月 1 日発足させた。
- ②大連理工大学金型研究センターと岩手大学金型研究センターとの間で、「アジア国際金型教育研究コンソーシアム」設立案についての基本合意がなされ、本年度はその設立準備作業を行った。また、後述する「UURR アジアものづくりグローバル人材育成プログラム」会期中に、大連理工大学、韓国国立ハンバット大学校・マレーシア・パハン大学各大学引率教員と同コンソーシアム設立について協議を行った。

(3) 両大学の教職員の交流及び共同研究の推進

- ①6 月 11 日-13 日の間、堺茂樹評議員・工学部教授を団長とする工学部教員 6 名、国際交流センター教員 1 名の工学部研究交流ミッションを派遣し、大連理工大学李俊傑副学長と意見交換をしたほか、同大学教員との間での研究交流及び同大学学生に対し、本学を紹介する講演会を実施した(工学部との共同事業)。
- ②9 月 27 日-28 日開催予定であった独立行政法人科学技術振興機構(JST)中国総合研究センター等主催の第 3 回日中大学フェア&フォーラムに大連理工大学

及び本学が出展の準備を進めていたが、主催者側都合により延期となった。これに代わる企画である、北京・上海で行われた JST 等主催の「第 18 回中国国際教育巡回展及び中国産学連携セミナー」に参加するため、本学から岩渕理事ほか地域連携推進センター教員1名、国際交流担当職員1名を平成 25 年 3 月 7 日-10 日中国に派遣した。

③10 月開催を予定していた日中韓国際産学官連携シンポジウム 2012 の大連理工大学での開催について、開催校の判断により本年度開催が見送られた。

④後述する「UURR アジアものづくりグローバル人材育成プログラム」会期中の 2 月 21 日に大連理工大学を含む引率の研究者及び本学研究者による「アジア金型・鋳造国際研究交流セミナー」を本学で開催した。

(4) 両大学間の教育・学生交流の実施

①12 月、従来工学部と大連理工大学化工学院との間で締結されていた、部局間学生交流の覚書を、大学間の学生交流に全学化する新たな覚書を締結した。

②後述する「UURR アジアものづくりグローバル人材育成プログラム」に対し、大連理工大学等からの学生が参加し、教育・学生交流を実施した。

(5) UURR 活動の文系分野への拡大

従来、工学分野との国際地域間連携を中心に進められてきた UURR プロジェクトであるが、平成 24 年度からは分野を文系にも広げることとし、新規分野の開拓のため、平泉文化遺産研究分野の連携を模索する「世界遺産教育中国調査」（浙江省・山東省）ミッションを平成 25 年 3 月 12 日-21 日の間派遣した。

4. UURR の将来展望

上述のとおり、平成 24 年度における UURR プロジェクトは中国の大学である大連理工大学との交流を中心に行われた。その間、他大学においても、本プロジェクトに対し関心が示されており、以下紹介する。

4.1 韓国国立ハンバット大学校を交えた日中韓3大学の連携可能性の模索

(1) 「日中韓大学国際産学官連携シンポジウム 2012」開催延期

上記のとおり、大連理工大学において日中韓国際産学官連携シンポジウム 2012 を開催する準備を各大学で進めていたところであったが、開催校判断により延期となった。

(2) 「UURR アジアものづくりグローバル人材育成プログラム」開催

2月20日-26日の間、金型及び鋳造分野について、大連理工大学、韓国国立ハンバット大学校・マレーシア・パハン大学、本学及び岐阜大学の学生参加の「UURRアジアものづくりグローバル人材育成プログラム」を岩手で開催し、製作実習を含む相互協働学習のほか、岩手企業でのインターンシップ体験・盛岡を案内する学生交流などを実施した。会期中に、各大学引率教員と「アジア国際金型教育研究コンソーシアム」設立について協議を行ったほか、期間中の2月21日に各大学の引率の研究者及び本学研究者による「アジア金型・鋳造国際研究交流セミナー」を本学で開催した。海外学生8名、海外引率教員6名を含む総勢約60名の学生及び教職員交流となった。

報告:早川智津子

米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告

1. 2012 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国インディアナ州にあるアーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度にはさらに学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣して実施するサイスプログラム (SICE: Studies in Cross-Cultural Education) に対して以下の支援を行っている。

(1) サイス学生に対する日本語教育の提供

(2) サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供

また、サイスプログラム参加学生は岩手大学の学園祭である不来方祭でも留学生会と協力して模擬店を出すなどして、岩手大学学生と連携しながら大学行事にも参加している。今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間:2012 年 8 月 27 日(月)～12 月6日(木)

参加人数:7 名

2. ハローパーティー

岩手大学生とサイス学生との交流の場を提供する目的で、ハローパーティー(日英での交流)を行った。

日時:10 月 4 日(木) 16:30-18:00 参加人数 45 名

3. English Camp

アーラム大学サイスプログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を実施した。詳細については本報告書「地域への支援事業」を参照。

4. 学内留学

サイス学生は引率教員の専門分野の講義をアーラム大学の教育プログラムの一環として英語で受講する。岩大生の英語能力向上に資するため、岩手大学とサイスプログラム担当者で協議して、若干名の岩大生がサイスプログラムの引率教員の講義を聴講できることとなり、岩手大学ではこれを「学内留学」と呼んでいる。今年度の概要は表 2 の通りである。2 か月前となる6月に学内留学の参加者募集を行って、参加希望者が各自の時間割に組み込みやすいように配慮した。履修学生には現在は単位認定を行っていないが、国際交流センター長より修了証書を授与し、アーラム大学から成績評価が本人に送られる。今年度は 1 名希望者がいたものの、面接の結果、受講不可となり参加者ゼロとなった。

表 2.学内留学概要

開講日程	平成 22 年 8 月 25 日(月)から 12 月 1 日(木) 毎週木曜日 13:00－16:00
テーマ	Language, Culture, Society and Iwate
受講の形態	聴講生として授業に参加し単位は認めないが、成績評価は受ける。
受講条件	十分な英語力と意欲を有する学部生または院生
選抜方法	希望者を英語面接し若干名を選抜

5. アーラム大学サイスプログラム引率教員による特別講義

サイスプログラムの受け入れ期間中に一度、引率教員は岩大の学生に対して専門分野に関連した特別講義を実施することになっている。今年度から実施した国際週間の一環に位置付けて実施した。詳細については本報告書「キャンパスの国際化支援事業報告」参照。

報告:尾中夏美

ヤングリーダーズ国際研修 in IWATE

1. 趣旨

本プログラムの趣旨は以下の通りである。

- ①本プログラムは、国内外の参加大学生がチーム活動を通して実践的な異文化理解や異文化間コミュニケーションを体験する機会を提供することで、参加学生は国や言語を超えた人と人のつながりの大切さについての理解を深める。
- ②本プログラムは参加学生に多様な言語背景を有する学生との共同作業(教育活動)を通じて、エネルギーに係る課題を理解し、体験を通してその理解を深化し、それを基にして架空の自治体におけるエネルギー政策を、共同で作成する作業を通して、グローバル人材として求められる多面的な視野や技能の育成を図る。

2. 実施内容

【期 間】

2013 年 2 月 14 日(木)～2 月 22 日(金)(全 9 日間)

【スケジュール】

- 2 月 14 日(木)オリエンテーション(アイスブレーキング、工学部高木教授による講義)、
岩手山青少年交流の家に移動
- 15 日(金)ディスカッション、グループワークによる研修
- 16 日(水)ディスカッション、グループワークによる研修
- 17 日(木)「森と風のがっこう」での研修
- 18 日(金)「森と風のがっこう」での研修
- 19 日(土)「森と風のがっこう」での研修
- 20 日(日)森と風のがっこう」での研修のふりかえり作業
- 21 日(月)最終課題のためのグループワーク
- 22 日(火)最終報告会

【参加者】

<交流協定大学等>

アイスランド: アイスランド大学 2 名

タイ: サイアム大学 2 名

韓国: 明知大学 1 名

群山大学 2名
中国： 北京大学 1名
大連理工大学 1名
石河子大学 1名
台湾： 国立高雄師範大学 2名
＜地元大学生＞
岩手大学 10名（内1名はモンゴル出身者） 岩手県立大学 1名
＜引率教員＞
岩手大学 2名

【研修の流れ】

- ① オリエンテーション、アイスブレイキング
- ② エネルギーについてのワークショップ(工学部)
- ③ 生活とエネルギー：事前課題と講義からの知識整理
- ④ 論理的思考ゲーム：エネルギー課題のキーワード整理
- ⑤ 地域差についての知識整理
- ⑥ 生活とエネルギー：事前課題と専門用語の整理
- ⑦ 論理的思考ゲーム：エネルギー課題のキーワード整理
- ⑧ くずまき町訪問準備
- ⑨ 森と風のがっこう研修
 - i. 太陽光パネル設置とエネルギーの活用体験
 - ii. 薪運び、風呂焚き等エネルギー活用体験
 - iii. 自然エネルギー活用実践例講話
 - iv. 葛巻町訪問(町役場、木質ペレット製造工場、オンドルと太陽光パネル利用者宅、木質ペレットボイラー導入公共施設)
 - v. 森の整備体験
 - vi. 福島原発事故についての講話
 - vii. 自家水力発電体験者による講話
 - viii. 自然エネルギーによる被災地支援についての紹介
- ⑩ 最終課題
- ⑪ 最終報告会

3. 成果

参加者の出身国に対して相互に持っていた肯定的ではないイメージが、現実交流をす

ることで大きく変化したことがアンケート調査から明らかになった。今回初めて海外に出たという韓国人学生が「とりあえず卒業して就職」という考え方を变えて、広く世界を見たいという希望を持ち始め、岩手大学に留学したいと希望するようになった。多くの海外からの参加者と交流するうちに、自分の視野の狭さを痛感し、さらに外国語を学習し、知見を広めたいという記述がアンケートに多く見られた。本事業が参加者の意識変革に寄与したことが明らかとなった。

4. 経費

平成 23 年度留学生交流支援制度(ショートステイ)プログラムにより 12 名分、1 名当たり 8 万円の支援が受けられることが決定していたため、個人負担は軽減できた。原則として盛岡での現地集合、現地解散とし、前後泊のホテル宿泊代は大学で負担した。岩手からの参加者については、期間中の食費相当分を参加費として徴収した。

報告:尾中夏美

海外留学支援事業報告

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

1. 海外留学・研修オリエンテーション

実施日程と参加人数は以下の通りである。

実施日程:5月10日(木) 午後4時30分～午後7時10分

参加人数:120名

オリエンテーションの内容は、表1の通りである。

表1. プログラム

時 間	内 容
16:30～16:45	海外留学・研修の意義と岩手大学での支援体制について
16:45～18:50	ロシア交換留学(全学)
	フランス交換留学(人文社会科学部)
	カナダ語学研修(全学)
	アイスランド交換留学(人文社会科学部)
	韓国交換留学(全学)・短期韓国語研修(全学)
	国際ボランティア・国際エコボランティア(全学)
	カナダ・アメリカ交換留学(全学)
18:50～19:10	海外留学・研修体験者による体験談(韓国交換留学、アイスランド:国際ボランティア)

2. 留学説明会

全学対象の交換留学申請のための説明会を以下のように実施し27名が参加した。

日程:7月12日(木)

対象となるプログラム:(米国) テキサス大学オースチン校、アーラム大学

マサチューセッツ大学ローウェル校

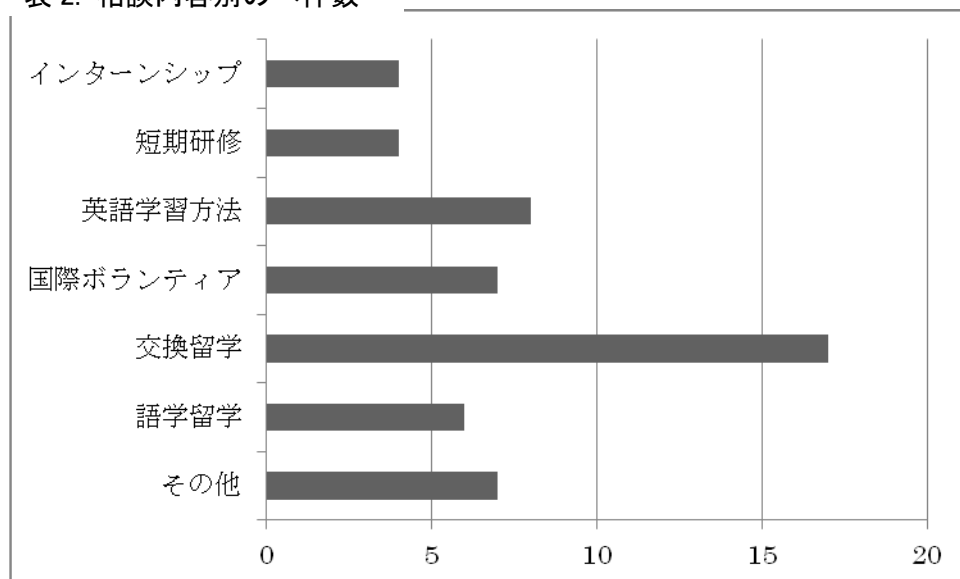
(カナダ)セント・メアリーズ大学

3. 個別留学相談

個別留学相談は学生それぞれで異なる空き時間に個別対応するため、不定期に実施している。相談受付のポスターは常時掲示しているので、希望者は国際課を通すか直接メールで

相談時間を予約する。平成 24 年度はのべ人数 53 名が留学相談に訪れた。

表 2. 相談内容別のべ件数



4. スーパー・イングリッシュ、ステップ・アップ・イングリッシュ

留学や海外研修を目指す学生の英語基礎トレーニングコースとしてステップ・アップ・イングリッシュを実施し、またこのコース修了者で一定レベルに達した学生対象に、TOEFLiBT®で交換留学が可能となるレベルに到達させることを目標とするスーパー・イングリッシュを実施している。1 学期 11 週間開講し、英語力で一定条件を満たす学生がステップ・アップ・イングリッシュを履修できる。

表 3. 受講者数

		2012 年度前期					2012 年度後期				
SUE	所属学部	人社	教育	工学	農学	合計	人社	教育	工学	農学	合計
	人数	6	4	1	1	12	4	3	1	5	13
SE	所属学部	人社	教育	工学	農学	合計	人社	教育	工学	農学	合計
	人数	0	1	0	1	2	2	3	1	2	8

5. リーディング・マラソン、リスニング・マラソン

英語基礎力強化のために、多読、多聴プログラムとして教材の貸出プログラムのリーディング・マラソン、リスニング・マラソンを週2回昼休みに実施している。平成 24 年度の新規登録者はリーディング・マラソン 27 名、リスニング・マラソンは 9 名だった。リーディング・マラソンに ICT プラットフォームと連動した読書前と読書後活動の支援付きプログラムを昨年度開始したが、今年度は 7 名が新規登録している。

報告:尾中夏美

英語 ICT コンテンツを活用した教育プラットフォーム開発事業報告

1. 事業概要

平成 22 年度～24 年度の 3 年間、「英語 ICT コンテンツを活用した教育プラットフォーム開発—国際的視野を持った地域人材育成のために」が特別運営費交付金事業として予算化された。この事業は大きく分けて英語 ICT 教育プラットフォーム開発事業と海外研修の事前・事後研修と海外研修を合体させたサンドイッチ型研修事業の 2 つから構成されている。現在大学教育総合センター、情報メディアセンター、国際交流センターの 3 センターが運営を担当しており、本事業のプロジェクト教員がプラットフォーム構築を行って、データベースを整備する作業にあたってきた。本稿では「英語 ICT 教育プラットフォーム開発事業」が最終年となる本年実施した内容を報告する。

2. ICT コンテンツを活用した教育プラットフォーム開発の進捗状況

2.1 教材データベースの活用

表1 プラットフォームを活用する授業一覧

科目区分	科目名
全学共通教育科目	英語コミュニケーション前後期Ⅰ（初級、中級、上級）Ⅱ（初級、中級、上級）、英語総合Ⅰ（中級）Ⅱ（初級）Ⅰ（上級）、Ⅱ（上級） 国際研修—エネルギーと持続可能な社会
工学部専門科目	科学英語Ⅱ、科学技術英語
工学研究科専門科目	科学英語特論Ⅰ
農学研究科専門科目	科学英語口頭発表、農学生産施設学、科学英語
人社会学部専門科目	応用英語、英語通訳・翻訳実習
留学準備教育	Step-Up English

平成 24 年度終了時にはさらに授業と連動した授業用 ICT 教材を作成した。表1は科目一覧である。授業以外に、自習用としての教材も多読・速読教材、講義の聴講、プレゼンテーションの作成法などが英語教材として稼働している。英語教材のみに限らず、ロシア語、フランス語などの学習教材および本学の日本語学習者が授業と連動して活用できる漢字教材も搭載を始め、実用化に着手した。

また、昨年度に引き続き入学前教育への活用も実施した。200 名程度の入学予定者がログインして、高校英語の復習をオンライン上でできるシステムを構築した。システムとしては稼働

可能であることが確認できているので、今後は持続的な運用に向けて、改善を重ねていくとともに、現時点では任意である学習活動に強制力を持たせた活用が可能になるようにシステムを構築していく。

2.2 フォーラムの開催

本事業が最終年度を迎えることから、総括のためにフォーラムを実施した。実施スケジュールは以下の通りである。別途実施報告を作成した。

実施日時:12月1日(土)10時～16時

時 間	内 容	
9:30~10:00	会場受付（学生センターA棟エントランスホール）	
	全 体 会 【会場:G2大】	
10:00~10:10	開会挨拶 岩手大学副学長・国際連携担当理事 岩淵 明	
10:10~11:10	基調講演 「地域で活躍できるグローバル人材の育成—大学教育での実践—」 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室 国際企画専門官 佐藤 邦明	
11:10~12:00	事業説明 ①事業概要 ②ICT プラットフォーム ③国際研修 岩手大学国際交流センター准教授 尾中夏美 同 特任教員 マーク・ディボア 同 情報メディアセンター講師 中西貴裕	
12:00~13:30	昼食・休憩	ICT プラットフォーム体験コーナー&CALL 教室見学 【会場:G37】
13:30~15:00	分 科 会	
	分科会1 【会場:G21】 ICT を活用したグローバル人材育成プログラム ①ICT を活用した基礎力教育 岩手大学非常勤講師 サイモン・タウンSEND ②e-Portfolio 機能利用学生の報告 岩手大学工学部3年佐々木良輔 ③国際研修 SCIP 参加学生の報告	分科会2 【会場:G23】 ICT を活用した教育活動 ①ロシア語教育への活用 岩手大学人文社会科学部准教授 金子百合子 ②理系教育への活用 岩手大学工学部准教授 瓜生誠司 岩手大学農学部准教授 松嶋卯月

	岩手大学農学部4年 及川弥里 同人文社会科学部3年 奥村 諒 <コメンテーター> 盛岡第三高等学校教諭 鈴木博 岩手大学人文社会科学部教授 家井 美千子	③高大接続教育への活用試行 岩手大学人文社会科学部教授 齋藤博次 ④作題協力学生の報告 岩手大学工学部4年 吉田昂平・小西匠 <コメンテーター> 一関第一高等学校教諭 高橋輝久 岩手大学人文社会科学部准教授 小林葉 子
15:00-15:15	休 憩	
15:15~16:00	全体総括 ー分科会のまとめと今後の展開ー 【会場:G2大】 分科会1報告 岩手大学国際交流センター長 壽松木章 分科会2報告 同 大学教育総合センター長・教育担当理事 高畑義人 全体総括 同 副学長・国際連携担当理事 岩渕 明 閉会 (16:00)	

3. サンドイッチ型研修プログラム

3.1 「国際研修—エネルギーと持続可能な社会—」(SCIP 研修)の実施内容

期 間	平成24年9月13日(木)～9月20日(木)(全8日間)
研修スケジュール	5月 工学部教員による講義(エネルギーリテラシー)と討議 6月 工学部教員による講義(クリーンエネルギー・再生可能エネルギー概論)と討議 7月 農学部教員による講義(エネルギーの地産地消によるまちづくり)と討議 8月 県内エネルギー施設視察(岩手の実践例を知る) 9月 海外研修 10月 ディスカッション、まとめ 11月 研修報告会(11月1日)と報告書提出 奨学金の受給状況 8名全員に8万円の奨学金が支給された

参加者

学部課程	学年	性別	派遣先
人社会学部環境科学	3	女	スウェーデン
人社会学部環境科学	3	女	アイスランド
人社会学部環境科学	2	女	アイスランド

人社会学部法学経済	3	男	アイスランド
人社会学部法学経済	3	女	スウェーデン
農学部農学生命	4	女	スウェーデン
農学部農学生命	3	女	アイスランド
農学部共生環境	4	女	スウェーデン

3.2 事前研修用教材としての ICT プラットフォームの活用

事前・事後研修においてフォーラムなどで ICT プラットフォームを活用し、対面で学生同士共同作業ができなくてもフォーラムを通じて作業が進められる環境を整えた。また研修中に使用されるパワーポイントなどの参考資料なども ICT プラットフォーム上にアップロードすることで、参加学生がいつでも閲覧できるようにした。

事前研修ではエネルギーに関連する日本語文献 5 冊、英語文献 5 冊を読むことを義務付けた。英語文献については各文献を読み終えた後に ICT プラットフォームに搭載されている文献の内容に関する理解度を確認するテストを受けさせ、80%以上の正解率が出るまで読み直しさせた。日本語文献については読み終えたら ICT プラットフォームに記録させることで、誰がどの文献を何冊まで読み終えたかが一目瞭然になるようにした。今回完成したフレームに微調整を加えながら今後も継続していく。

3.3 スウェーデン、アイスランドの各担当者の招聘

平成 25 年 2 月 12 日から 15 日までスウェーデンとアイスランドのコーディネーター及びアイスランド大学日本語教員とスウェーデンの研修地となるリンネ大学理工学部教員を招聘して、SCIP 研修についての理解を深めるための打ち合わせや説明会などを実施した。また学部との連携も視野に入れながら、講演会なども実施した。詳細については本報告書「キャンパスの国際化支援事業報告」参照。

報告:尾中夏美

平成 24 年度がんちゃん国際フォーラム講演会開催報告

1. がんちゃん国際フォーラム開催趣旨

本講演会は、国際舞台の一線で活躍する有識者の講演を通じ、本学学生がグローバル化のなかでの地域のあり方を考え、実践する(いわゆる「Think globally, act locally」)きっかけとして、国際的なセンスを磨くことを助けることをもって、本学の目指す持続可能な社会づくりの担い手となる国際理解力のある人材育成に資することを目的としている。

なお、フォーラム名称に岩手大学のイメージキャラクター「がんちゃん」を冠することにより、学生に親しみを感じてもらうことを狙った。さらに、がんちゃんの角のように国際理解に対する知的好奇心のアンテナを高くかけ、国際的に通用する情報受信力・発信力を養ってもらいたいという願いを込めている。

2. 開催概要等

2.1 第 8 回がんちゃん国際フォーラム講演会

(1) 概要

- ・ 主 催： 岩手大学国際交流センター
- ・ 共 催： 男女共同参画推進室
- ・ 開催日時： 平成 24 年 7 月 10 日(火) 13:00～14:30 (90 分) (12:30 開場)
- ・ 開催場所： 岩手大学 学生センターA 棟 2F G2 大教室
- ・ 講演者： 中村かおり 厚生労働省大臣官房国際課総括課長補佐
- ・ 講演テーマ： 「グローバルに女性が『働く』ことをめぐって
—— 米国で出会った日本人、外国人」
- ・ 対象者： 学生、教職員及び一般市民、参加者約 200 名

(2) 講演内容

第一線で活躍する女性行政官の講師が、在アメリカ日本大使館での経験や、厚生労働省での仕事の魅力と国内外のキャリア形成機会について講演を行った。概要は以下のとおり。



① 女性の社会参画

講師の自己紹介を通じて、厚生労働省での女性のキャリア形成の事例の紹介がなされた。続いて、男女格差解消が進んでいる国のランキング(世界経済フォーラム『世界のジェンダー格差報告書 2011』)を引用して、男女格差が小さい北欧諸国(1位アイスランド)に比して、日本は135か国中98位として下位にあること、なかでも、国会議員数(97位)、賃金格差(93位)、経営者数(112位)の指標において格差が著しいとの指摘がなされた。さらに、アメリカ Foreign Policy 誌の女性政治家アンケートにおいて、政治の世界での女性差別を感じるとの回答が75%に及んでおり、「女性は... すべき、女性は... すべきでない」といった差別扱いを受けた経験があるといった回答の説明がなされた。

② 米国で働く人々の姿

続いて、講師が昨年まで3年間の在アメリカ日本大使館一等書記官としての勤務経験を通じて感じたことの紹介がなされ、アメリカ労働省では、移民のルーツをもつ女性労働長官(大臣)のもとで、局長クラスなど幹部にも女性の活躍が目立つことなど、日米の会談の写真を挙げて説明がなされた。

そこで、労働力率をもとに日米比較すると、移民を除くアメリカの労働力率の男女格差は10.5ポイントであるのに対し、日本では20.7ポイントもの差があることの指摘がなされた。さらに、アメリカでは募集段階において、機会均等を尊重する雇用主(Equal Opportunity Employer)であることが採用広告の決まり文句になっていること、公民権法第7編において、性別等に基づく雇用差別が禁止されていること、実際に差別が認定された裁判例の紹介や、オバマ政権のもとで公正賃金法(男女の賃金格差禁止)の改正がなされ、かつては、差別を知ったときから2年を限度にしか請求できなかったのを、賃金支払期ごとの差別認定が可能となったことの紹介がなされた。他方、外国人労働者などの低賃金労働の現状についての事例も紹介された。



③ 海外で暮らす、働く

以上のアメリカでの人々の働き方の紹介から目を転じて、学生が将来、海外で暮らす、働くことについて説明がなされた。とくに、外国暮らしのきっかけとして、留学や、結婚、ワーキングホリデー、企業・役所からの海外派遣や国際機関や外国企業への海外就職など多様なルートがあること、とくに、国家公務員対象の人事院長期在外研究員制度や、若手の国際機関への就職を支援する外務省国際機関人事センターによるJPO制度の説明がなされた。併せ

て、アメリカで活躍する日本人女性の事例が紹介された。

④ 働く女性への支援

最後に、働く女性を支援するための政府の取組について紹介がなされた。とくに、雇用機会均等法に基づく雇用機会均等の確保や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現のための取組がなされていること、最近では、「働く『なでしこ』大作戦」（平成 24 年 6 月 22 日）（「女性の活躍促進による経済活性化」行動計画）に基づき、男性の意識改革や、思い切ったポジティブアクションの実施のほか、公務員について女性の採用拡大（国家公務員 30%）などの計画が実施されていることの説明がなされた。

(3) アンケート(自由回答抜粋)

- ・(学生) 普段聴くことができない話を直接聞くことができて良かったです。国際的にみて、日本ってまだまだ女性の進出が妨げられているなと感じました。今回の話を聴いて、すごく視野が広がったと思います。世界は広い！「はたらく『なでしこ』大作戦」は面白いと思った。
- ・(学生) 貴重なお話を聴くことができて良かったです。興味のある内容だったので面白かったです。海外への留学や就職に興味があるので、今日学んだ制度などを有効利用していきたいと思います。
- ・(学生) アメリカの方が女性の社会進出が進んでいることはなんとなく知っていたのですが、ここまで日本より進化しているとは思いませんでした。外国に実際に留学して自分の目で現状をみたいと思いました。
- ・(学生) もともと海外で暮らすこと、働くことにたいへん興味があったが、就活を目前にその気持ちを抑え込んでいた。今回の講演で感じたことを踏まえて、もう一度自分の将来について考えていきたい。

2.2 第 9 回がんちゃん国際フォーラム講演会

(1) 概要

- ・主 催： 岩手大学国際交流センター
- ・開催日時： 平成 24 年 11 月 8 日(木) 16:30～18:00 (90 分)
- ・開催場所： 岩手大学 学生センターB 棟 1F GB11 教室
- ・講演者： 角谷 明子 アーラム大学教授
- ・講演テーマ： 「アメリカから見える日本と日本語教育」
- ・対象者： 学生、教職員及び一般市民、参加者 16 名

(2) 講演内容

アメリカでの日本語教育の観点から、アメリカから日本がどのようにみられているか等につ

いて講演がなされた。とくに、高等学校以下の外国語教育では、どのような言語が選ばれるかは、コミュニティの意思(流行)が反映されやすいこと、これに対して、大学での語学教育は、教育予算配分において教育成果を含めたカリキュラム評価が厳格に行われていることが紹介された。近年、中国政府の後押しもあり、アメリカでの中国語教育が盛んになってきている一方、日本語については日本政府のバックアップが十分とはいえないこと、他方で、暗記中心の伝統的な中国語教育は必ずしもアメリカ人学生向けの教育方法としては適していない面もあり、教育法については改善すべき点が少なくないこと、などが紹介された。アメリカにおける日本語教育希望者の増減は、同国における日本のプレゼンスに大きく左右されると同時に、アメリカでの外国語教育が世界のグローバル化にどのように向き合うのかが問われていると締めくくられた。

2.3 第10回がんちゃん国際フォーラム講演会

国際週間の一環として実施した。詳細については本報告書「キャンパスの国際化支援事業報告」を参照のこと。

報告：早川智津子

平成 24 年度 フィールドスタディ in 北上(工場見学)実施報告

1. 期 日

平成 24 年 2 月 22 日(金)

2. 場 所

トヨタ自動車東日本(株)岩手工場、(株)岩手ヤクルト工場、みちのく民俗村、
岩手大学工学部附属金型技術研究センター

3. 参 加 者

外国人留学生:25名

内訳：学部別	人文社会科学部・研究科	7 名
	教育学部	9 名
	工学部・研究科	5 名
	農学部・研究科	2 名
	国際交流センター	2 名
学年別	正規生(学部生)	4 名
	正規生(院生)	3 名
	交換留学生	11 名
	日本語研修生	2 名
	研究生	5 名
引率者	3 名	
	岡崎 正道	国際交流センター教授
	崔 華月	国際課外国語専門職員
	佐々木 恵	国際課職員

平成 24 年度 3 回目のフィールドスタディとして、県内のものづくりの現場をめぐる工場見学を実施し、25 名の留学生が参加した。

最初の岩手ヤクルト工場では、まずヤクルトの会社やヤクルトができるまでをスライドで紹介していただき、その後実際に生産されている工場内を見学した。

その後「みちのく民俗村」の博物館にて、学芸員の方の案内で北上地域の歴史的資料を見学。昔の東北の生活ぶりなどを見ることができた。

午後は、トヨタ自動車東日本(株)岩手工場を見学。コンピュータと最新テクノロジーで制御された無人カートが部品を運ぶ工場内で、車が次々に生産されていく工程を見せていただいた。その後、スライドでの会社紹介があり、質疑応答のコーナーでは留学生からたくさんの質

問があり、車作りやトヨタにおける外国人雇用などについて担当者の方から説明を受けた。

最後に、岩手大学の金型技術研究センターへ行き、金型・鋳造技術研究の現場を見せていただいた。金属を精密にくり抜く装置や、プラスチック成型をする型を作るところ、また1台の車を分解している展示コーナーなどを、留学生も大変興味深そうに見ていた。

日本有数の企業の工場見学とあって、参加学生もいろいろな質問をし、写真におさめるなど、研修としても有意義なものとなった。

報告:国際課

平成24年度フィールドスタディ in 久慈(北部陸中海岸)実施報告

1. 目 的

岩手大学に学ぶ留学生に対する教育活動の一環として、被災地である久慈市を中心とした北部陸中海岸地域を実際に見学し、留学生の県内地域の理解を深めるとともに、留学生相互の交流によって今後の学習面及び生活面の充実に寄与することを目的とする。

2. 期 日

平成24年8月8日(水)～8月9日(木)(1泊2日)

3. 実施場所

8日(水) くずまきワイナリー見学・平庭高原の見学、散策・バッテリー村見学、道の駅やませ土風館の山車見学、久慈琥珀博物館にて琥珀発掘体験

9日(木) 桂の水車広場へ早朝散策・小袖海岸にて海女実演見学・北山崎見学、龍泉洞見学

4. 参加人員

外国人留学生:19名

内訳：学部別	人文社会科学部・研究科	5名
	教育学部・研究科	6名
	工学部・研究科	6名
	連合農学研究科	1名
	国際交流センター	2名
学年別	正規生(学部生)	2名
	正規生(院生)	5名
	交換留学生	11名
	研究生	1名

引率者 3名

岡崎 正道 国際交流センター教授

上杉 明 国際課長

崔 華月 国際課外国語専門職員

本学に在籍している留学生 19 名(中国、台湾、韓国、タイ、マレーシア、フランス、アメリカ)

が参加するフィールドスタディ in 久慈(北部陸中海岸)を1泊2日で実施した。

初日は「くずまきワイナリー」の見学と試飲、バッテリー村の見学、久慈琥珀博物館で琥珀についての学習と琥珀発掘体験などを行ない、夜は新山根温泉「べっぴんの湯」に宿泊した。翌日は小袖海岸で海女の実演を見学、次いで三陸の名勝・北山崎を訪れ、最後は岩泉で日本三大鍾乳洞の一つ龍泉洞を見学した。

岩手県内であるが、北部陸中海岸地域は普段なかなか訪れる機会を得られないところも多く、充実した2日間だった。また、参加した留学生には、地域文化への理解を深める良い機会となった。

報告:国際課

平成 24 年度 フィールドスタディ スキーin 安比 実施報告

1. 目 的

岩手大学に学ぶ外国人留学生が、母国で経験することの少ないスキーや雪遊び体験などを通じて、雪国である岩手の冬に親しむ。更に、留学生相互、教職員並びに地域住民等との交流を図り、留学生活の適応と留学生教育の効果を高めることを目的とする。

2. 期 日

平成 25 年1月4日(金)～1月5日(土)(1泊2日)

3. 実施・宿泊場所

安比高原スキー場・ホテル安比グランドアネックス

4. 参加人員

外国人留学生:40名

内訳) 学部別	人文社会科学部・研究科	9 名
	教育学部・研究科	14 名
	工学部・研究科	10 名
	農学部・研究科	1 名
	連合農学研究科	4 名
	国際交流センター	2 名

学年別	正規生(学部生)	6 名
	正規生(院生)	10 名
	交換留学生	20 名
	日本語研修生	1 名
	研究生	3 名

引率者	3 名
	壽松木 章 国際交流センター長
	崔 華月 国際課外国語専門職員
	佐々木 恵 国際課主事

例年 2 泊 3 日で実施しているスキー研修を今回は暦と休み期間の関係もあり、1 泊 2 日としたが、40 名定員の募集に 61 名の応募があった。参加者は交換留学生やこれまでスキー研修に未参加だった留学生が中心となった。

初日は吹雪の中初めてのスキーに苦勞する学生も多かったが、2 日目には天候も回復し、予定通り 2 日間グループ毎に分かれ、インストラクターの指導の下スキーの実技講習を行った。スキーインストラクターに関しては、前年度の八幡平スキー場での研修を参考にボランティアスタッフについて問い合わせたところ、安比高原で手配する 6 人のうち半数の 3 人をボランティアインストラクターとして用意していただくことができた。この制度が来年度以降も続いているならば、積極的に活用するようにしたい。

研修後に実施したアンケートでは、スキー、宿泊施設など全般的に「とても良い」とする回答が多く、充実した研修となった。

報告:国際課

平成 24 年度国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組

1. 国際交流に伴う危機管理体制構築

「岩手大学の学生の国際交流に係る危機管理マニュアル」(平成 23 年 7 月 21 日学術推進本部承認)を踏まえ、留学生の危機管理の観点から、下記の「第 2 回留学生のための防災(地震)ワークショップ」、および「外国人留学生のための新たな在留資格制度の説明会」を開催した。

2. 留学生の防災ワークショップ

2.1 講演会概要

- ・ 名 称 : 第 2 回留学生の防災ワークショップ
- ・ 主 催 : 岩手大学地域防災研究センター、岩手大学国際交流センター
(防災指導車による指導について、岩手県立総合防災センターのご協力をいただいた。)
- ・ 開催日時 : 平成 24 年 6 月 19 日(火)15:00～17:00 (2 時間)
- ・ 開催場所 : 岩手大学図書館 2F 生涯学習・多目的学習室および図書館駐車場
- ・ 対 象 者 : 岩手大学外国人留学生 20 名(チューター学生ほかも含む)

2.2 実施報告

開催に先立ち、岩手大学地域防災研究センター副センター長の越谷准教授より、地震のない国からきている留学生もいるなか、地震の正しい知識、避難方法をワークショップで学んでほしい、と開会あいさつがなされた。

続いて、工学部社会環境工学科 山本英和准教授より、地震についてのレクチャーが行われた。冒頭、地震・津波被害の写真の紹介とともに、地震の一次災害(直接被害)と二次被害(ライフラインの寸断など)があることの説明がなされた。つづいて、日本は、プレートの上で国土が乗っており、世界の大地震のおよそ 20%が日本で発生する地震国であることが紹介され、地震(断層)と地震動(揺れ)の違い、地震の波の種類(P 波、S 波)とその伝播のメカニズム、震度とマグニチュードの違いの説明がなされ、揺れは震度で表され、全部で最大震度 7 までの 10 段階あることが紹介された。こうした地震の予知は、現段階では不可能であり(東海地震のみ予知可能性あり)、地震波の特徴を利用した緊急地震速報による数秒間の間にいかに身を守るかが大切とのアドバイスがなされた。

その後、2階の会場で地震が発生したことを想定して、避難訓練を行いながら、図書館前の防災指導車前に集まり、留学生らが防災指導車による地震体験(関東大震災の揺れ

の体験、暗闇のなかで煙に包まれる体験)を経験した。留学生は地震の揺れに驚きながら、地震に備えなければと感想を漏らしていた。

続けて、国際交流センター 早川智津子准教授より、大地震のときに起こるライフライン(電気、電話、水道、交通など)の寸断について説明を行ったほか、地震に備えて準備しておくべきものの紹介を行った。

最後に、岩手大学教育学部特別支援教育 名古屋恒彦教授より、岩手大学で行っている学生の被災地ボランティアに留学生も参加できること、ボランティア参加希望者は、ボランティア参加前に毎月行っている事前説明会に参加すること、学生支援課の窓口でボランティア保険の手続き(無料)をすることについて案内がなされた。

2.3 所感

昨年第1回(40 名参加)に比べると参加者が減少したものの、参加者は熱心に山本先生のレクチャーに聴き入っていた。また、小雨交じりの天候であったが、防災指導車を体験した留学生からは、地震の備えの必要性を実感できた、との発言もあった。

本ワークショップを次年度以降も、地域防災研究センターとの共催で実施していくことは意義があると考ええる。

なお、今回、テレビ岩手、めんこいテレビが本ワークショップの様子を同日 6 時台のニュースで放送したほか、読売新聞、盛岡タイムズ記者による取材があり、岩手の留学生の防災教育に対するメディアの関心の高さが示された。

3. 外国人留学生のための新たな在留資格制度の説明会

3.1 講演会概要

- ・ 名 称 : 「外国人留学生のための新たな在留資格制度の説明会」
- ・ 主 催 : 岩手大学国際交流センター
- ・ 開催日時 : 平成 24 年 8 月 2 日 16:30～(約 1.5 時間)
- ・ 開催場所 : 岩手大学学生センターA 棟 1 階 G19 教室
- ・ 対 象 者 : 岩手大学留学生、外国人研究員ほか

3.2 実施報告

改正入管法施行に伴う新たな在留管理制度について、仙台入国管理局盛岡出張所より、新たな在留管理制度の手続きについて、盛岡市より、住民基本台帳制度の手続きについて、それぞれ説明がなされた。

報告: 早川智津子

平成 24 年度国際連携理事室 WG への参画

1. 国際連携戦略策定支援

岩渕明国際連携担当理事のもと、下記の国際連携理事室 WG を開催し、本学の国際連携戦略及びアクションプランの案を検討した。

なお、国際連携戦略は、「岩手大学の国際連携戦略」として、岩渕理事発議により、平成 24 年 5 月学術推進本部会議において了承された。

2. 国際連携理事室 WG の開催

下記のとおり国際連携理事室 WG を開催し、国際連携戦略をもとに今後あるべきアクションプランについて検討した。

(1) 第 11 回国際連携理事室 WG

- ・日時:8 月 30 日(金)13:00～(2 時間程度)
- ・場所:国際交流センター相談室(学生センターB 棟1階)
- ・議題:国際連携戦略(5月策定)に基づくアクションプランの検討
教員対象のアンケート実施案
その他

(2) 第 12 回国際連携理事室 WG

- ・日時:11 月 7 日(水)10:30～(2 時間程度)
- ・場所:国際交流センター相談室(学生センターB 棟1階)
- ・議題:教員対象のアンケート実施結果報告
岩手大学学生の海外渡航アンケート実施結果報告
上記結果を踏まえた今後のプランの検討
その他

(3) 第 13 回国際連携理事室 WG

- ・日時:平成 25 年 2 月 5 日(火) 9:30～(2 時間程度)
- ・場所:国際交流センター相談室(学生センターB 棟1階)
- ・議題:今後のプランの検討(継続)
その他

報告:早川智津子

平成 24 年度 学長と外国人留学生との懇談会記録

1. 日 時:

平成 25 年 1 月 25 日 (金) 13:00～14:30

2. 場 所:

学生センターB 棟1階 多目的室

3. 参加教職員:

藤井克己学長、壽松木章国際交流センター長、松岡洋子准教授、尾中夏美准教授、早川智津子准教授、佐藤貢研究交流部長、上杉明国際課長、国際課職員 3 名

4. 参加留学生:

蒲 鉦(プユ、人文社会科学部、中国、男)

タチアナ ヒンギエヴァ(人文社会科学部、研究生、ロシア、女)

単 晨曦(タン シンギ、教育学部、交換留学生、中国、女)

鐘 賽君(ショウ サイゲン、工学研究科、交換留学生、中国、女)

栄 璃純(エイ ユウジュン、工学部、研究生、中国、女)

モハンタ ウディ クマール(農学研究科、研究生、バングラデシュ、男)

アルノルダス ユアザイティス(国際交流センター、日本語研修生、リトアニア、男)

陶 燕娜(トウ エンナ、国際交流センター、日本語・日本文化研修生、中国、女)

5. 次 第:

- (1) 開会
- (2) 出席者紹介
- (3) 学長挨拶
- (4) 懇談

6. テ ー マ:

学長と語ろう！～岩手大学に入学して見えてきたもの～

7. 内 容:

司会から参加教職員の紹介、また参加留学生から自己紹介があった。その後、懇談に先立

ち学長より挨拶があった。

懇談では、参加留学生に事前に岩手大学を評価してもらった「岩手大学への通信簿」を参考に、留学生に意見を述べてもらった。

参加留学生からの主な意見は以下のとおり。

●岩手大学を選んだ理由

受験する前にサイトや資料でいろいろ調べたら評価が高かった。また岡崎先生という面白い先生がいるという事にも興味があった。盛岡という街も、日本らしい文化を持つ場所で、また冷麺・わんこそば・じゃじゃ麺も大好きです。

テレビで安比を紹介する番組があって、それを見ていい所だと感じた。自分が住んでいたのは南の方に位置していて雪がない場所なので、北の方にある所に住みたかった。岩手に住み始めて雪を見るとわくわくします。

●岩手大学について思うこと、感じることなど

地域での役に立つ情報(主要施設などの場所等)は必要。

最後に、岩淵理事・副学長が留学生から出た意見をまとめ、閉会となった。

報告:国際課

国際交流センターによる大学広報活動報告

1. 海外でのPR活動と情報収集の意義

アジアの他国でも留学生の獲得にしのぎを削っている現在、「オールジャパン」としての日本ブランド力をあげることが求められる。

質の高い留学生を受け入れる為に、海外で行われている日本留学フェア及び国内の外国人学生のための進学説明会等での説明を通じて、本学の認知度を高め、留学希望者に直接大学をPRすることも重要である。また、日本留学フェア等のイベントと関連付けて協定校を訪問し、説明会を実施することで、本学への関心度を増し、質の高い学生獲得につなげる貴重な機会である。留学生の受入のみならず、研究交流に結び付く可能性のある事案について、積極的に学部への情報提供を行い、全学で取り組んでいく必要がある。

2. 韓国訪問

2.1 日本留学フェア

教員が人文社会科学部から1名、国際交流センターから1名、事務職員が国際課から1名参加したほか、ブース対応では、韓国籍の在學生と元岩手大学留学生らの応援を得た。

岩手大学のブース来場者は、右表の相談者のほかに、日本語学校・留学あっせん機関等関係者数名の来訪があった。詳細は以下のとおり。

日本留学フェア(韓国)概要	
開催日程	釜山 : 9月8日(土) ソウル : 9月9日(日)
開催場所	プサン: BEXCO (Busan Exhibition & Convention Center)
	ソウル: SETEC (Seoul Trade Exhibition Center)
来場者数	プサン: 1750 名
	ソウル: 2450 名
岩手大学ブースへの来訪者数	プサン: 33 名 (内訳: 学部 33 名、大学院 0 名、不明 1 名)
	ソウル: 44 名 (内訳: 学部 41 名、大学院 3 名、不明 3 名)

(1) 学部別(のべ人数):

	学部希望者	大学院希望者	関心のある分野
人文社会科学部	53名	1名	心理学、経済学、経営学、環境、文学、日本語、日本文化
教育学部	3名	1名	芸術、心理学
工学部	12名	1名	電気電子、情報、生命工学、機械、材料
農学部	2名		動物科学、生命

(2) 主な相談事項

大学概要	岩手大学の位置、岩手の位置、盛岡駅からの距離、周辺環境について
入試について	入試日程、科目、手続きについて、日本留学試験のボーダーライン、入試に英語成績(TOEFL など)が必要かどうか、私費留学生入試の合格者割合、人文社会科学部の小論文試験のテーマ
研究生について	出願時期について、専攻の教員情報について
編入について	人社と工学部への編入相談
納付金	授業料、入学料の額、及び免除について、免除される割合
奨学金について	奨学金の種類、受給者数について、申請方法
生活状況	生活費、アルバイトはしやすい環境か?
宿舎について	寮の入居状況、家賃、所在地など
就職について	就職率、学部ごとの就職状況について
東日本大震災について	被災状況、放射線量など

(3) 全体的な感想

- ・ 人文社会科学部の希望者が半分以上を占めていた。(経済、日本語、日本文学、心理学、環境など)
- ・ 学部希望者がほとんどで、大学院希望者が例年に比べて減っていた。
- ・ 日本に留学するための基本情報が浸透されていて、ブースでは大学向けの相談内容に集中できていた。
- ・ 来場者に高校の在籍生が多く、昨年に続き、2度目の相談者もいた。
- ・ 学生本人だけではなく、保護者と一緒に訪れた学生も多く見られた。
- ・ 今年は本学から韓国語対応できる教職員 2 名と在学中の韓国人留学生 1 名が参加し、来場者により近い目線で相談に応じることができた。
- ・ 文部科学省依頼により、釜山・ソウル会場にて元留学生として崔外国語専門職員が震災後の大学及び町の状況、留学のメリットなどについて、5 分間のスピーチを行った。

- ・ フェア終了後、協定校である明知大学校にて日本語専門の学生約 40 名を対象に岩手大学紹介を行い、担当教職員と情報交換を行った。

(4) 今後の対応について

- ・ 一番質問の多い学部である人文社会科学部の韓国籍教員の参加は、今後も継続する必要性が高い。
- ・ 来場者は、在学中の韓国人留学生から生の声を聞くことができ、とても効果的だった。来年度以降も一時帰国中の留学生、卒業生等に協力を呼びかける必要がある。
- ・ 来場者の中で、募集要項を希望している方には 11 月中旬に送付することになっているが、実際の志願者がどの程度いるか入試課と協力して情報収集が必要。
- ・ 韓国は、来場者の日本語力が高く、また日本の国立大学への志願者が年々増えていることから、今後の有力な広報対象である。
- ・ フェアに併せて協定校を訪問することで、協定校との連携を発展させる良い機会となり、今後も継続したほうが良い。

2.2 韓国明知大学校訪問

フェア終了後、協定校である明知大学校にて日本語専門の学生約 40 名を対象に岩手大学紹介を行い、担当教職員と情報交換を行った。

3. タイ訪問

3.1 日本留学フェア

教員が国際交流センターから 1 名、事務職員 2 名が参加したほか、現地の国際交流支援コーディネーター 1 名が参加し、会場においてタイ語で自らの留学経験を紹介するなどの対応をしてもらい、本学に対する来場者の関心を高めることができた。

岩手大学のブース来場者は、右表の相談者のほかに、日本語学校関係者の来訪があった。詳細は以下のとおり。

日本留学フェア(タイ)概要	
開催日程	バンコク:9 月 16 日(日)
開催場所	Bangkok Convention Centre at CentralWorld
来場者数	1699 名
岩手大学ブースへの来訪者数	97 名

(1) 学部別(のべ人数):

	学部希望者 (名)	大学院希望者 (名)	未定 (名)	関心のある分野
人文社会科学	5	12	2	法学、経済学、経営学、日本語、日本文化

教育	0	4	3	芸術、体育学
工	7	16	1	電気電子、材料、情報、生命工学、機械、建築
農	0	4	1	動物科学、生命化学
未定	6	3	38	
合計	18	39	45	

(2) 主な相談事項

大学概要	岩手大学の位置、岩手の位置、盛岡駅からの距離、周辺環境、気候について 学部の詳細、キャンパスについて
入試について	入試日程、科目、手続きについて、入試に英語成績(TOEFL など)が必要か、 日本留学試験(EJU)科目等について
授業について	日本語のクラスについて、英語コースはあるか、学期開始は何月か
留学生について	総留学生数、タイ人留学生数、留学生の卒業・修了率
研究生について	出願時期、申請方法、専攻の教員情報について
納付金	授業料、入学料の額、及び免除について、免除される割合
奨学金について	奨学金の種類、受給者数、申請方法
生活状況	生活費、留学生のアルバイトの状況
宿舎について	学生寮の入居状況、寄宿料、所在地など
東日本大震災について	被災状況、放射線量など

(3) 全体的な感想

- ・ 日本留学を希望する高校生の来訪者が多く見受けられた。また、親を同伴する来場者が比較的多い。両親向けの安全・安心アピールも重要。
- ・ 現在は仕事をしているが数年後に日本へ留学予定という学生も数名いた。
- ・ 日本語でのコミュニケーションは困難(ベトナムでのフェア来場者と同程度か、それよりも低い印象)。また、英語もほとんど通じない。
- ・ コーディネーターのパイリントラさんおよびタイに帰国中の本学留学生ナロンサック・ピシヤピストさんが来訪者の相談にタイ語で対応し、(元)留学生の目線からの詳しい説明が可能となった。
- ・ フェアの翌日にパイリントラさんの所属大学であるキングモンクット工科大学トンブリ校を訪問し、生物資源技術研究科長より研究科概要説明を受け、研究室を訪問した。

(4) 今後の対応について

- ・ タイ語対応の出来るコーディネーターの参加は不可欠のため、今後も継続する必要がある

る。

- ・ タイ人在学生による説明は大変効果的であった。来年度以降も一時帰国中の留学生、卒業生等に協力を呼びかける必要がある。
- ・ さんさ踊りおよび盛岡市の DVD を上映することで岩手の地域性をアピールするとともに、本学学生はさんさ踊りに大学として参加できることに好感を持つ学生が多数いた。
- ・ 次回に向けて、タイ語の大学案内および他資料を 1 冊にまとめる、コーディネーター連絡先を記載する等修正する。

3.2 キングモンクト工科大学トンブリ校訪問

フェアの翌日にパイリントラさんの所属大学であるキングモンクト工科大学トンブリ校を訪問し、生物資源技術研究科長より研究科概要説明を受け、研究室を訪問した。

4. 北米訪問

4.1 NAFSA(米国国際教育学会)

5月 27 日から6月 1 日まで、テキサス州ヒューストンで行われた NAFSA (Association of International Educators)の展示会場にて、JASSO 主催の日本留学フェアに本学から国際交流センター教員1名が参加した。フェア開催中は、米国、アイスランド、韓国、オーストラリアなどの協定校等との情報交換や新しい交流先の開拓ができ、大変有効な場となった。

4.2 協定大学等訪問

日本留学フェアに先立って、5月 24 日から 25 日まで国際交流センター教員 1 名が協定校であるテキサス大学オースティン校を訪問した。NAFSA に参加する協定校の担当者対象に同大学がオープンキャンパスを開催し、それに参加した。大学の協定校からの学生交流の現状、大学施設の見学や、担当者との面談など、きめ細かく対応され、全体像把握および窓口担当者との信頼関係構築に役立った。

5. EAIE(欧州国際教育学会)参加

EAIE が今年度はアイルランド、ダブリンで 9 月 12 日から 14 日まで開催され、国際交流センター教員 1 名、事務職員 2 名が参加し岩手大学のブースで大学情報を提供した。詳細は以下のとおり。

(1) ブースでの活動報告

- ・オーストラリア、クイーンズランド大学関係者との情報フォローアップ

今年3月に訪問したクイーンズランド大学の担当者がブースを訪問。3月以降の対応等について情報共有した。

・モントリオール大学担当者との面談

Frida Anbar (International Relations Advisor)と面談。フランス語学習者受け入れに関心あり。モントリオール大学では31言語を教えており、日本語・日本文化もその一つにあることを確認済み。対応：人社のグラ先生他に連絡をとったところ、グラ先生より今までにも一度接触したことのある大学で、今後協議を進めたいとの連絡あり。

・ESIEE-AMIENS 大学担当者との面談

Alison Coghill (International Relation Officer)と面談。工学系の大学院大学でフランス北部に所在。研究インターンシップ先として日本の大学に学生派遣を希望。本学として希望研究分野等の詳細を提出してもらった上で、対応できる教員を探せる可能性について言及。対応：内容を簡単に兼務教員である山口昌樹先生に連絡。個人的には関心ありとの返信。学部として対応してもらうため、具体的な交渉については山口先生の海外出張終了後に直接説明し今後の対応を協議する予定。

(2) セッションでの情報

学生の就職力(employability)についてのセッションが数件見受けられた。ETS では企業が希望するプロフィールを持った学生を雇用できるよう、あらたな性格テストのような知能テストのようなもの(?)を開発中。グローバル人材指標になんらかのインパクトを与えるかどうかは未知数。

6. 進学説明会

7月15日(日)、日本学生支援機構(JASSO)主催の「2012年外国人学生のための進学説明会」(会場：サンシャインシティ文化会館 2F 展示ホール D)に、教員1名、職員2名で参加した。

本進学説明会には、169機関(国立48大学、公立4大学、私立95大学、短期大学2大学、その他20機関)が参加し、総入場者数は2507人であった(H23年度2931人、H22年度3984人、H21年度2546人)。

岩手大学ブースを訪問した学ぶ外国人相談者(記帳者のみ)は以下のとおり(その他、日本語学校関係者5名の来訪があった)。

(1) 総計:77名(H23年79名、H22年105名、H21年49名、H20年44名、H19年39名、H18年43名)

(2) 国別:中国(69名)、ベトナム(2名)、マレーシア(3名)、インドネシア(2名)、アメリカ(1名)

(3) 学部別:

- ・人文社会科学部(21名):法学、経済学、経営学、欧米史学、語学(うち大学院希望5名)
- ・教育学部(10名):日本語学、教育心理学
- ・工学部(25名):電気電子、情報システム、機械、社会環境(うち大学院希望7名)
- ・農学部(7名):農学生命、獣医学
- ・無記入(14名)

(4) 主な相談事項

大学概要: 岩手大学の位置、岩手県の位置、周辺環境、就職について

入試について: 入試日程、必要な科目、手続きについて

日本留学試験のボーダーライン

英語成績(TOEFL など)が必要かどうか

私費留学生入試の合格者割合(前年度の留学生入学者数)

研究生出願手続きについて

納付金: 入学料および授業料の額、授業料免除について

授業料免除許可者の割合、授業料免除許可の基準

奨学金について: 私費奨学金の種類、金額、受給者数

生活状況: おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか

宿舍について: 学生寮の設備、寮費等必要経費について

その他の質問事項: 盛岡の気候、雰囲気等について

留学生在籍数、各国別の留学生在籍数

オープンキャンパスについて、サークル活動について

(5) 全体的な感想

- ・全体的に学部入試を希望する学生が多く、願書の配布を希望する学生も多かった。
- ・大学院進学希望者が例年より増加し、具体的な申請書類や試験の内容についての相談が多かったため、今年度より持参した各研究科の募集要項が大いに役立った。
- ・大学案内を留学生向けの資料として新たに持参し、希望者に配布した。学部・コース毎の詳細な記述があり、各教員の専門分野も記載されているため、岩手大学で学ぶことができる具体的な研究内容を例示する際の手持ち資料としても有用であった。
- ・前年度同様、日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。
- ・昨年度同様に今年度も PC を持ち込み、インターネットを使用できる環境を導入した。持ち込まなかった資料の補足説明のため、ホームページ等を学生に見せながら説明した。来年度もインターネット環境は導入したほうがよい。

- ・大学全体の就職率、留学生の就職について関心を持っている学生がいた。就職に関する前年度のデータも手持ち資料として持参すると説明の際便利か。
- ・今年度のオープンキャンパスに参加し実際に大学の様子を見てみたいという学生が数名いた。今回は入試課作成のオープンキャンパスチラシを手持ち資料としては持参したが、部数が少ないため、配布はできなかった。次回は希望者へ配布できるようお持ちしたほうが良い。
- ・現在岩手大学に留学している学生の日本語学校での後輩が来訪してくれた。先輩や日本語学校の先生からの話を聞き、岩手大学ブースを目指して来てくれた様子だった。
- ・訪問者は中国の学生が大半を占め、中国語の留学案内を60部用意したが、足りなくなり、途中から日本語で対応した。会場全体で中国語での対応が可能なブースはほとんどなく、今年度の4月に日本に来たばかりで言葉に不安を持つ学生が岩手大学の中国語対応を聞きつけてやって来た様子だった。質問したいことを日本語でどのように表現すべきかわからない、という問題がないため、中国人学生はリラックスして十分に相談を行うことができ、効率的だった。次回以降も、中国語対応ができるようにしたほうが良い。
- ・来場者に、本学で行われている留学生向けの様々な活動(イベントや体験活動)、被災地支援活動などについても説明を行った。担当の岡崎先生が詳細に説明を行い、大変有効であった。

報告:尾中夏美、国際課

キャンパスの国際化支援事業報告

「国際週間」事業

1. 主旨

本学学生・教職員および一般市民等に対し、国際理解の啓発と国際交流の普及、各事業の波及効果を図ることを目的に以下に記載した事業を実施した。期間中、本学で主催・支援等を行っている海外留学・派遣プログラム体験者による報告を紹介するとともに、多文化共生や異文化理解といった価値観育成に資する講演会や説明会などを集中的に開催した。

2. 開催概要

実施期間:平成24年 11 月 1 日(月)～11 月 9 日(金)

実施場所:展示会は期間中毎日9時から5時まで学生センターB棟1階西側フリースペースで実施。他の事業はフリースペース近くの多目的室を中心に実施した。

3. 実施事業

3.1 海外派遣・国際交流プログラム参加体験展示会(11 月 1 日～11 月 9 日)

海外留学や国際ボランティア、海外インターンシップなどの海外派遣プログラムに参加した学生の体験談のほか、ヤングリーダーズ国際研修など岩手大学で実施している国際交流プログラムの成果などについて、ポスターの展示報告や写真上映等を実施した。

3.2 国際研修—エネルギーと持続可能な社会— 研修報告会

(11月1日(木)16:30～18:00 学生センターB棟1階多目的室)

内容:9月13日から21日まで、アイスランドとスウェーデンで実施した国際研修の参加学生8名が、その成果について口頭発表を行った。

3.3 がんちゃん国際フォーラム:米国アーラム大学 SICE プログラム引率教員による講演

(11月8日(木)16:30～18:00 学生センターB 棟1階 GB11)

演題:アメリカから見える日本と日本語教育

内容:アーラム大学サイスプログラム引率教員である角谷明子教授は米国において長年日本語教育に携わってきた。日本語教育希望者の増減はアメリカにおける日本のプレゼンスに大きく左右される。このような社会背景と日本語教育について講演した。使用言語は日本語。

3.4 英語 ICT 教材を活用した英語スキルアッププログラムの体験会

(11月9日(金)16:30~18:00 学生センターA 棟1階 G32)

内容:ICT プラットフォームを活用した自習のやり方をプログラム教員が直接学生に指導し、学生にはプログラムを体験した。関心のある教員は学生の背後から使用状況を観察した。

3.5 岩手大学留学生によるミニ講演会

(11月7日(水)16:30~18:00 学生センターB 棟1階多目的室)

演題:私の国のあんなこと、こんなこと

内容:アイスランド大学からの交換留学生が英語でアイスランドの文化や歴史について紹介した。本学で学ぶ学生が英語で講演を聞く機会を増やすとともに、世界のさまざまな文化に触れる機会を提供した。

特別講演会事業

2 月に本学で実施する国際研修の打ち合わせのためスウェーデンのリンネ大学とアイスランドのアイスランド大学から関係者を招聘した。この機会を活用して、工学部で継続的に実施している銀河レクチャー事業と連携して講演会を実施した。

第3回銀河レクチャー

日 時:2月12日(火)10時~12時

場 所:工学部銀河ホール

演 題:My Country, My University and My Profession (英語)

講演者:Dr. Anne-Charlotte Larsson (リンネ大学理工学部副学部長)

Herdís Sigurjónsdóttir (本学国際交流コーディネーター)

2013 年がんちゃんフォーラム特別公開講座

日 時:2月13日(水)13時~15時

場 所:学生センターB 棟1階多目的室

演 題:私が見たスウェーデン社会(日本語)

My Country, My University and My Profession (英語)

講演者:鈴木満 (本学国際交流コーディネーター)

Gunnella Torgeirsdóttir (アイスランド大学人文学部日本語・日本文化学科長)

報告:尾中夏美

－その他 業務報告－

地域への支援事業報告

1. English Camp

1.1 趣旨

岩手大学及び岩手大学の協定校である米国アールラム大学との共催により、両大学の学生が、岩手県に住む中学生たちとともに、英語のみによる合宿生活を行う。合宿期間中、アメリカの伝統文化に関する様々な体験学習を通じて、国際交流に興味を持つきっかけを作るとともに、英語学習への意欲を育み、広く世界で活躍できる人材(グローバル人材)の基礎を構築することを趣旨とする。なお、今年度は東日本大震災の影響で ALT の不足や国際交流活動の停滞が懸念される沿岸地域の中学生を参加対象とし、復興支援も兼ねている。

1.2 実施内容

【期 間】

2012 年 11 月 17 日(土)～11 月 18 日(日)(2日間)

【場 所】

国立岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢村)

【スケジュール】

	活動内容
11 月 17 日 8:00	沿岸各地より借り上げバスで移動
9:30	岩手大学より岩手大学生、アールラム大学生移動。着後準備。
11:00	会場到着。大学生と合流。班分け、オリエンテーション
12:00	昼食
13:00	英語を使った体験活動(4プログラム程度)
18:00	夕食
19:00	英語を使った体験活動
20:30	入浴
11 月 18 日 6:30	起床、掃除
9:00	英語を使った体験活動(2プログラム程度)
11:25	振り返り、昼食
14:00	解散。借り上げバスで移動。大学生は岩手大学へ
17:00	沿岸各地到着

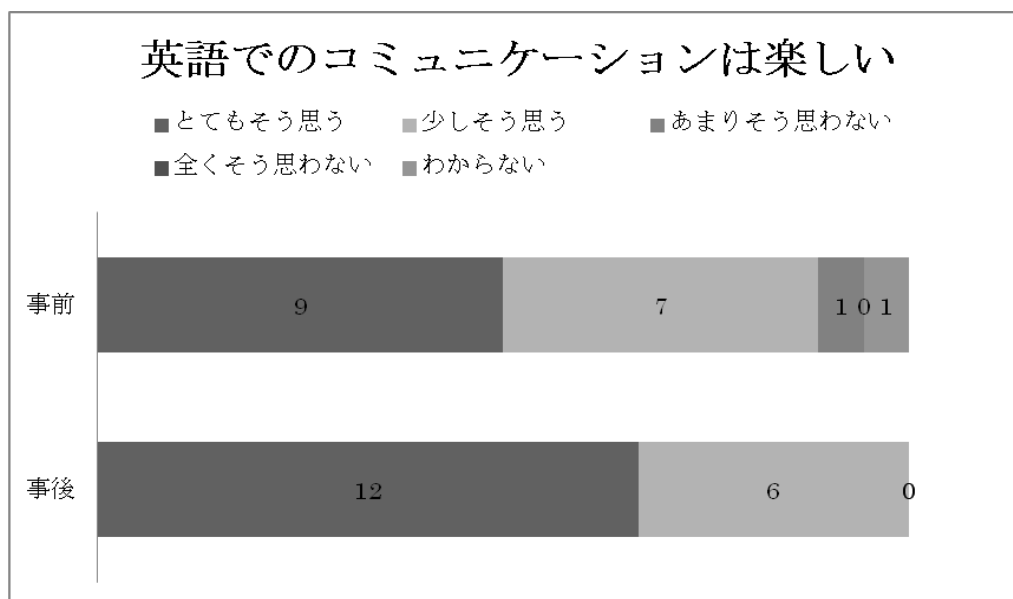
【参加者】

中学生： 田野畑中学校 2 名 釜石中学校 6 名 唐丹中学校 3 名
釜石東中学校 3 名 大平中学校 4 名
岩手大学生： 11 名 アーラム大学生： 7 名 ALT： 5 名
引率教員： 岩手大学 1 名 アーラム大学 2 名

【研修内容】

日本語でのオリエンテーション終了後は日本語使用禁止で2日間を過ごした。岩手大学生とアーラム大学生はそれぞれ2名ずつ4名で4チームに分かれ、英語活動やクラフト作りなどの活動を企画運営した。中学生は学年や所属中学校が異なる生徒を組み合わせ、米国人、日本人大学生と同室宿泊させることで、英語を使うことと同時に「知らない人」とのコミュニケーション能力を育成する機会も提供した。

1.3 成 果



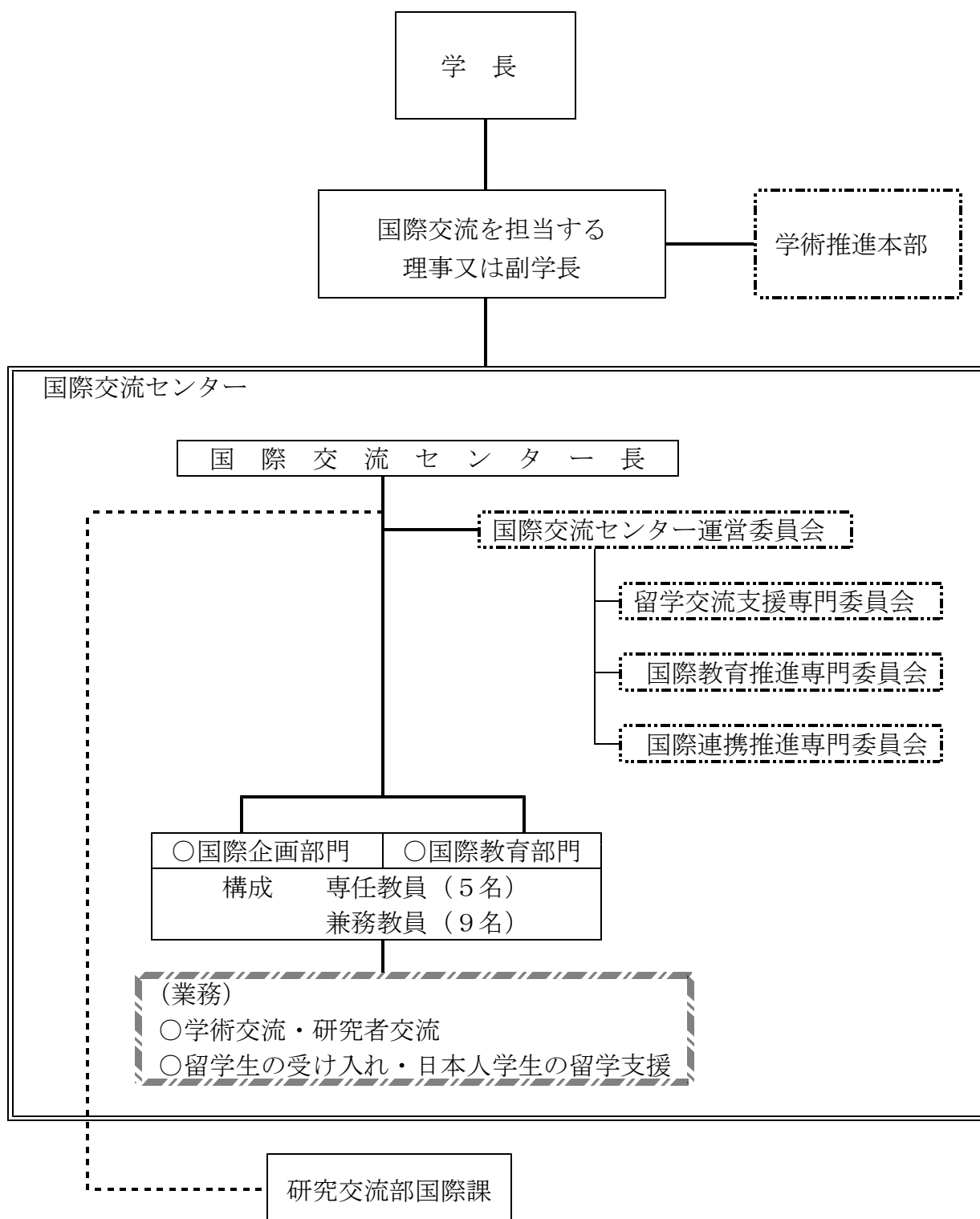
合宿では事前事後アンケートを取った。中学生については、上のグラフに見られるように、「英語でのコミュニケーションを楽しみ」かどうかについて問うた。事業前には「とてもそう思う」が9名、「少しそう思う」が7名で若干名の「あまりそう思わない」と「わからない」という回答があったが、事業終了後には全員が「とてもそう思う」「少しそう思う」のいずれかであると回答し半分以上が「とてもそう思う」と回答した。このことから英語でのコミュニケーションに対する前向きな態度が育成されていることがわかり、教育効果が認められる。企画側にいた日本人大学生でも英語のみで二日間を過ごすことが意識や態度の変化をもたらしたことが調査結果から明らかになった。

報告：尾中夏美、国際課

—資料—

国際交流センター組織図

○ 岩手大学国際交流センター組織図



平成24年度留学生関連行事

実 施 月 日	行 事 名
4月1日(日)	前期開始
4月5日(木)	日本語オリエンテーション
4月6日(金)	日本語研修コース及び短期留学特別プログラム開講式
4月6日(土)	岩手大学入学式
4月10日(火)	前期留学生オリエンテーション サークルU・留学生会・中国人留学生学友会説明会
4月10日(火)	ライブラリーツアー
4月11日(水)	前期外国人留学生チューターオリエンテーション
4月12日(木)	国際交流会館オリエンテーション
4月～7月(週2回)	ステップアップイングリッシュ(前期)
4月～7月(週2回)	スーパーイングリッシュ(前期)
5月10日(木)	海外留学・研修オリエンテーション
5月29日(火)～6月1日(金)	日本留学フェア(北米)
6月1日(金)	開学記念日
6月16日(土)	留学生と市民のガーデンパーティ 2012
6月19日(火)	留学生のための防災(地震)ワークショップ
6月19日(火)	留学生生け花ワークショップ
6月28日(木)	留学交流に関する学習会
7月10日(火)	第8回がんちゃん国際フォーラム
7月15日(日)	外国人学生のための進学説明会(東京)
7月20日(金)	交換留学生個別研究発表会(前期)
8月1日(水)	盛岡さんさ踊り
8月2日(木)	外国人留学生のための新たな在留管理制度説明会
8月3日(金)	短期留学特別プログラム修了式
8月6日(月)～9月30日(日)	夏季休業
8月8日(水)～9日(木)	フィールドスタディin IWATE(久慈)
8月23日(木)～12月8日(土)	アールム大学SICEプログラム
9月8日(土)～9日(日)	日本留学フェア(ソウル、釜山)
9月12日(水)～14日(金)	日本留学フェア(欧州・アイルランド ダブリン)
9月13日(木)～21日(金)	国際研修－エネルギーと持続可能な社会－ 現地研修(スウェーデン、アイスランド)
9月14日(金)～16日(日)	日本留学フェア(チェンマイ、バンコク)
9月22日(土)～23日(日)	岩手県外国人留学生就職支援協議会就職支援講座
9月27日(木)	日本語特別コース等オリエンテーション
9月28日(金)	前期成績発表
10月1日(月)	後期授業開始
10月4日(木)	短期留学特別プログラム、日本語・日本文化研修コース開講式

実 施 月 日	行 事 名
10月5日(金)	後期留学生オリエンテーション サークルU・留学生会・中国人留学生学友会説明会
10月9日(火)	ライブラリートour
10月10日(水)	国際交流会館オリエンテーション
10月16日(火)	後期外国人留学生チューターオリエンテーション
10月～12月(週2回)	ステップアップイングリッシュ(後期)
10月～12月(週2回)	スーパーイングリッシュ(後期)
10月20日(土)～21日(日)	不来方祭(20日(土)オープンキャンパス)
11月1日(木)～9日(金)	岩手大学国際週間
11月13日(火)	留学生着物ワークショップ
11月17日(土)～18日(日)	English Camp
11月16日(水)	留学生生け花体験
11月23日(金)～24日(土)	北東北三大学外国人留学生合同合宿研修
12月1日(土)	特別公開フォーラム 「ICTコンテンツを活用したグローバル人材教育の可能性」
12月8日(土)	日本語学習支援ネットワーク会議
12月15日(土)～16日(日)	留学生就職支援セミナー
12月21日(水)	国際ボランティア等参加者支援事業説明会(CIEE)
12月24日(月)～1月7日(月)	冬季休業
1月4日(金)～5日(土)	フィールドスタディ in IWATE(安比)
1月18日(金)	交換留学生個別研究発表会(後期)
1月19日(土)～20日(日)	大学入試センター試験
1月25日(金)	学長と外国人留学生との懇談会
2月4日(月)	岩手県留学生交流推進協議会総会・交流懇談会
2月12日(火)	日本語研修コースおよび短期留学特別プログラム修了式
2月12日(火)	留学生就職支援事業(企業向けセミナー)
2月14日(木)～22日(金)	ヤングリーダーズ国際研修 「岩手から考えるエネルギーと持続可能な社会」
2月20日(水)～26日(木)	UURRものづくりグローバル人材育成プログラム
2月22日(金)	フィールドスタディ in 北上(工場見学)
2月25日(土)～26日(日)	個別学力試験(前期日程)
3月12日(火)	個別学力試験(後期日程)
3月22日(金)	卒業式・修了式

岩手大学留学生集計表(平成24年5月1日現在)

《種別》

【学部所属】

()は女子で内数

学 部	正 規 生			小 計	非 正 規 生					小 計	合 計
	学 部 生				研 究 生			特 別 聴 講 学 生	科 目 等 履 修 生		
	国 費	政 府	私 費		国 費	政 府	私 費	私 費	私 費		
人 文 社 会 学 部			16 (7)	16 (7)			2 (2)	11 (6)		13 (8)	29 (15)
教 育 学 部			3 (2)	3 (2)			1	9 (7)		10 (7)	13 (9)
工 学 部		10 (5)	20 (7)	30 (12)	1		4			5	35 (12)
農 学 部			2 (2)	2 (2)			1			1	3 (2)
合 計		10 (5)	41 (18)	51 (23)	1		8 (2)	20 (13)		29 (15)	80 (38)

【大学院所属】

大 学 院	正 規 生			小 計	非 正 規 生						小 計	合 計	
					研 究 生			教 員 研 修 留 学 生	特 別 聽 講 学 生	特 別 研 究 学 生			科 目 等 履 修 生
	国 費	政 府	私 費		国 費	政 府	私 費	国 費	私 費	私 費			私 費
人文社会科学研究科			5 (3)	5 (3)									5 (3)
教育学研究科	1 (1)		13 (7)	14 (8)					4 (3)			4 (3)	18 (11)
工学研究科(M)			15 (9)	15 (9)					2 (1)			2 (1)	17 (10)
工学研究科(D)	3 (1)		14 (6)	17 (7)									17 (7)
農学研究科(M)	1		6 (2)	7 (2)	1							1	8 (2)
連合農学研究科	16 (8)		35 (13)	51 (21)									51 (21)
合 計	21 (10)		88 (40)	109 (50)	1				6 (4)			7 (4)	116 (54)

【国際交流センター所属】

国際交流センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計	4 (2)		2 (1)		6 (3)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費	政 府	私 費	合 計
正 規 生	21 (10)	10 (5)	129 (58)	160 (73)
非 正 規 生	6 (2)		36 (20)	42 (22)
合 計	27 (12)	10 (5)	165 (78)	202 (95)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学17名、他大学配属34名〉

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩手大学	2		15 (6)	17 (6)
帯広畜産大	6 (3)		9 (5)	15 (8)
弘前大学	1 (1)		6 (1)	7 (2)
山形大学	7 (4)		5 (1)	12 (5)
合 計	16 (8)		35 (13)	51 (21)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	2		2 (1)	4 (1)

(国籍別:アフガニスタン2、エジプト2)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

168 (80)

《国籍別》

26ヶ国 202人

(アジア・オセアニア) 14カ国 183(84)人				(アメリカ) 4カ国 5(1)人		(アフリカ) 4カ国 4(2)人		(ヨーロッパ) 4カ国10(8)人	
国 名	計	国 名	計	国 名	計	国 名	計	国 名	計
インドネシア	6 (3)	ベトナム	5 (3)	アメリカ	2 (1)	エジプト	1 (1)	アイスランド	1
韓 国	15 (5)	マレーシア	14 (6)	ガイアナ	1	タンザニア	1	キルギス	2 (1)
スリランカ	1 (1)	モンゴル	9 (4)	ジャマイカ	1	ブルキナファソ	1	フランス	3 (3)
タ イ	5 (3)	ミャンマー	3 (2)	ホンジュラス	1	ボツワナ	1 (1)	ロシア	4 (4)
台 湾	3 (2)	ヨルダン	1						
中 国	107 (51)	ネパール	1						
バングラデシュ	12 (3)	フィジー	1 (1)						

岩手大学留学生集計表(平成24年10月1日現在)

《種別》

()は女子で内数

【学部所属】

学 部	正 規 生			小 計	非 正 規 生						小 計	合 計
	学 部 生				研 究 生				特 別 聴 講 学 生	科 目 等 履 修 生		
	国 費	政 府	私 費		国 費	政 府	県 費	私 費	私 費	私 費		
人 文 社 会 学 学 部			16 (7)	16 (7)				4 (3)	10 (2)		14 (5)	30 (12)
教 育 学 部			3 (2)	3 (2)	1 (1)		1 (1)	7 (4)	13 (10)		22 (16)	25 (18)
工 学 部		10 (5)	20 (7)	30 (12)	1			7 (1)			8 (1)	38 (13)
農 学 部			2 (2)	2 (2)				2 (1)			2 (1)	4 (3)
合 計		10 (5)	41 (18)	51 (23)	2 (1)		1 (1)	20 (9)	23 (12)		46 (23)	97 (46)

【大学院所属】

大 学 院	正 規 生			小 計	非 正 規 生							小 計	合 計
					研 究 生			教員研修留学生	特別聴講学生	特別研究学生	科目等履修生		
					国費	政府	私費	国費	私費	私費	私費		
人文社会科学研究科			5 (3)	5 (3)									5 (3)
教育学研究科	1 (1)		12 (7)	13 (8)						4 (2)		4 (2)	17 (10)
工学研究科(M)	1		12 (7)	13 (7)			1			1 (1)		2 (1)	15 (8)
工学研究科(D)	2		15 (6)	17 (6)									17 (6)
農学研究科(M)	1		2 (1)	3 (1)	1		1					2	5 (1)
連合農学研究科	16 (8)		34 (11)	50 (19)									50 (19)
合 計	21 (9)		80 (35)	101 (44)	1		2			5 (3)		8 (3)	109 (47)

【国際交流センター所属】

国際交流センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計	3 (1)	1 (1)			4 (2)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費		政 府		県費		私 費		合 計	
正 規 生	21	(9)	10	(5)			121	(53)	152	(67)
非 正 規 生	7	(3)			1	(1)	50	(24)	58	(28)
合 計	28	(12)	10	(5)	1	(1)	171	(77)	210	(95)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学16名、他大学配属34名〉

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩 手 大 学	2		14 (5)	16 (5)
帯広畜産大	6 (3)		8 (4)	14 (7)
弘 前 大 学	1 (1)		7 (1)	8 (2)
山 形 大 学	7 (4)		5 (1)	12 (5)
合 計	16 (8)		34 (11)	50 (19)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	2		2 (1)	4 (1)

(国籍別:アフガニスタン2、エジプト2)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

176 (81)

《国籍別》

24ヶ国 210人

(アジア・オセアニア) 14カ国 194(90)人		(アメリカ) 5カ国 6(1)人		(アフリカ) 1カ国 1(0)人		(ヨーロッパ) 4カ国9(4)人	
国 名	計	国 名	計	国 名	計	国 名	計
インドネシア	5 (2)	ベ ト ナ ム	5 (3)	ア メ リ カ	2	エ ジ プ ト	1
韓 国	16 (5)	マ レ ー シ ア	14 (6)	ガ イ ア ナ	1	ア イ ス ラ ン ド	2
スリランカ	1 (1)	モ ン ゴ ル	8 (4)	ジャマイカ	1	リトアニア	1
タ イ	6 (3)	ミ ャ ン マ ー	3 (2)	ホンジュラス	1	フ ラ ン ス	2
台 湾	3 (2)	ヨ ル ダ ン	1	ブラジル	1 (1)	ロ シ ア	4 (4)
中 国	120 (59)	ネ パ ール	1				
バングラデシュ	10 (2)	ソ ロ モ ン	1 (1)				

外国の大学との交流 Academic Cooperation between Universities/Faculties

平成 24 年 5 月 1 日現在

大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
中華人民共和国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002. 9. 25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003. 12. 5	○	
	西北大学 Northwest University	2003. 12. 9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005. 5. 23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006. 10. 3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006. 10. 28	○	○
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004. 7. 13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006. 8. 23	○	
	全南大学校 Chonnam National University	2009. 9. 1	○	
台湾 Taiwan	高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011. 7. 8	○	○
タイ王国 Kingdom of Thailand	サイアム大学 Siam University	2002. 7. 2	○	
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998. 11. 6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003. 8. 11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004. 10. 20	○	○
	マサチューセッツ大学ローウェル校 The University of Massachusetts Lowell	2012. 2. 15	○	○
カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003. 7. 31	○	○
アイスランド共和国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011. 2. 16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化芸術大学 St. Petersburg State Academy of Culture	2000. 3. 28	○	○

部局間協定 Faculties

部局名 Faculty in Charge	国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
				学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
人文社会科学部 Faculty of Humanities and Social Sciences	フランス共和国 French Republic	ミシェル・ド・モンテーニュ・ボルドー第3大学 University Michel de Montaigne-Bordeaux3	2007. 7. 6	○	○
	大韓民国 Republic of Korea	群山大学校 Kunsan National University	2011. 1. 20	○	○
教育学部 Faculty of Education	中華人民共和国 People's Republic of China	北京大学哲学系（宗教学系） Peking University Department of Philosophy (Religion)	1998. 8. 21	○	
		清華大学中文系 Tsinghua University of Chinese Languages & Literature	2000. 12. 15	○	○
		山東工芸美術学院国際交流与合作処 Shandong University of Art and Design Office of International Exchange and Cooperation	2006. 5. 19	○	○
	イタリア共和国 Republic of Italy	カララ大学 Accademia di Belle Arti di Carrara	2005. 10. 5	○	○
	アメリカ合衆国 United States of America	ノース・セントラル・カレッジ North Central College	2002. 9. 6	○	○
	カナダ Canada	ブリティッシュ・コロンビア大学 The University of British Columbia	2001. 7. 17	○	
工学部 Faculty of Engineering	中華人民共和国 People's Republic of China	中国科学院蘭州化学物理研究所 Lanzhou Institute of Chemical Physics, Chinese Academy of Sciences	2002. 9. 26	○	
		新疆農業大学 Xinjiang Agricultural University	2003. 11. 10	○	○
		華南理工大学 South China University of Technology	2004. 7. 6	○	
		西北農林科技大学信息工程学院 Northwest A&F University College of Information Engineering	2006. 8. 23	○	
		上海高分子材料研究開発センター Shanghai Research and Development for Polymeric Materials	2010. 2. 1	○	
		西安科技大学計算機科学と技術学院 College of Computer Science and Technology, Xi'an University	2010. 9. 8	○	
	大韓民国 Republic of Korea	韓国原子力エネルギー研究所 Korea Atomic Energy Research Institute (KAERI)	2006. 1. 24	○	
		安東大学校工科大学 Andong National University College of Engineering	2006. 5. 1	○	
		ソウル科学技術大学校工科大学 Seoul National University of Science and Technology College of Engineering	2007. 10. 8	○	

工学部 Engineering	タイ王国 Kingdom of Thailand	チュラロンコン大学理学部 Chulalongkorn University Faculty of science	2002.1.10	○	
	マレーシア Malaysia	マレーシアパハン大学研究イノベーション部門 Department of Research and Innovation, University Malaysia Pahang	2010.12.1	○	
	バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	バングラデシュ工科大学工学部 Faculty of Engineering, Bangladesh University of Engineering and Technology	2003.12.23	○	
	モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 数学とコンピュータサイエンス学院 National University of Mongolia School of Mathematics and Computer Science	2007.9.14	○	
		モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and Technology	2007.12.18	○	
	フランス共和国 French Republic	ピエール・エ・マリーキュリー大学電気化学部 Electrochemistry Department of Pierre & Marie Curie University	1997.4.19	○	
	キルギス共和国 Kyrgyz Republic	キルギス-トルコマナス大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyzstan-Turkey Manas University	2009.10.22	○	○
		キルギス-ロシアスラブ大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyz-Russian Slavic University	2010.12.1	○	○
農学部 Agriculture	アメリカ合衆国 United States of America	パデュー大学農学部 Purdue University. School of Agriculture	1996.4.4	○	○
農学研究科 United Graduate School of Agricultural Sciences Graduate School	カナダ Canada	サスカチュワン大学農業生物資源学部 University of Saskatchewan College of Agriculture and Bioresources	2008.3.1	○	

平成24年度岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧

▶【交換留学】1ヶ月から1年間の留学

下記プログラムは協定校との交換プログラムで、岩手大学で授業料を払えば派遣先での授業料は免除されます。また、JASSOの給付型奨学金(3ヶ月以上から)を申請することができます。
ただし、休学して留学した場合は、授業料免除及び単位認定は受けられません。

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	参加資格	費用の目安	担当教員(学部)
サント・ペテルブルグ交換留学プログラム	[ロシア] サント・ペテルブルグ国立文化芸術大学	9月初旬(原則)	半年または1年	あり	全学2年～4年 院生	年70万円から80万円	金子百合子(人社)
短期派遣プログラム	[アメリカ] テキサス大学オースティン校	8月中旬	1年	あり	全学	生活費・旅費	尾中夏美(国際交流センター)
短期派遣プログラム	[アメリカ] アーラム大学	8月中旬	1年	あり	全学	生活費・旅費	尾中夏美(国際交流センター)
短期派遣プログラム	[アメリカ] マサチューセッツ大学ローウェル校	8月中旬	1年	あり	全学	生活費・旅費	尾中夏美(国際交流センター)
短期派遣プログラム	[カナダ] セント・メアリーズ大学	8月中旬	1年	あり	全学	生活費・旅費	尾中夏美(国際交流センター)
短期派遣プログラム	[韓国] 明知大学校	3月または9月	半年または1年	あり	全学	生活費・旅費	家井美千子(人社)
短期派遣プログラム	[台湾] 高雄師範大学	8月頃	1年	あり	全学	生活費・旅費	田中隆充(教育)
ボルドー交換留学プログラム	[フランス] ボルドー第3大学	9月より	5ヶ月から1年	あり	人社2年～4年 院生	年80万円から90万円	グー アレクサンデル(人社)
短期派遣プログラム	[アイスランド] アイスランド大学	9月	1年	あり	人社	生活費・旅費	斉藤博次(人社)
短期派遣プログラム	[アメリカ] ノースセントラルカレッジ	4月または8月	1年	あり	教育	生活費・旅費	山崎友子(教育)
短期派遣プログラム	[中国] 清華大学	8月頃	1年	あり	教育	生活費・旅費	藪敏裕(教育)
短期派遣プログラム	[中国] 曲阜師範大学	8月頃	1年	あり	教育	生活費・旅費	藪敏裕(教育)
短期派遣プログラム	[中国] 寧波大学	8月頃	1年	あり	教育・人社	生活費・旅費	藪敏裕(教育)
短期派遣プログラム	[中国] 吉林農業大学	8月頃	1年	あり	農学	生活費(寮費免除あり)・旅費	小藤田久義(農学)
短期派遣プログラム	[イタリア] カラーアアカデミア	3月または10月	3ヶ月から1年	あり	教育	生活費・旅費	藁谷収(教育)
短期派遣プログラム	[中国] 新疆農業大学	8月頃	1年	あり	工学	生活費・旅費	藤田尚毅(工学部)
短期派遣プログラム	[韓国] 群山大学校	8月下旬	9日間	なし	人社2年生～	奨学金8万円支給あり	家井美千子(人社)
パデュー大学学生派遣プログラム	[アメリカ] パデュー大学 ※今年度中止	8月頃	1ヶ月	あり	農学	プログラム代金1000ドル・ 旅費は自己負担、奨学金 の可能性あり	ラーマン アビドゥール(農学)

▶【短期海外研修】

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	参加資格	費用の目安	担当教員(学部)
短期英語研修	[カナダ] オカナガン大学	3月頃	3週	あり	全学	約25万円	モルヴィー バーン(人社)
明知大サマーキャンプ(韓国語研修)	[韓国] 明知大学校	8月上旬	3週	あり	全学	往復交通費・5000円	家井美千子(人社)
国際冬期・夏期学校(韓国語研修)	[韓国] 全南大学校	2月・8月	3週	なし	全学	往復交通費・参加費約7万円	塚本知玄(農学)
短期中国語研修	[中国] 清華大学	8月頃	1ヶ月	なし	全学	約20万円	藪敏裕(教育)
中国語短期語学研修(文化コース・環境コース)	[中国] 大連理工大学	7月中旬	3週	なし	全学	往復交通費・参加費等約9万円	早川智津子(国際交流センター)
夏季韓国語研修	[韓国] 群山大学校	8月	4週	あり	人社	往復交通費・滞在費	家井美千子(人社)
日本語教育実習、予備実習	[中国] 清華大学・寧波大学	9月・3月頃	2週間	あり	教育	平成24年度は国際交流基金の補助有り	藪敏裕(教育)
漢文学実地研修	[中国] 国語の教科書に出てくる場所など	9月頃	10日	あり	教育	実費負担	藪敏裕(教育)
国際研修(理系英語研修)	[カナダ] プリティッシュ・コロンビア大学 English Language Institute	8月頃	4週	あり	工学2年・3年 院生	約40万円	荒木功人(工学)
海外インターンシップ(就業体験)	[東アジア、東南アジア、南アジア] 日経海外現地法人	8月頃	2週から4週	あり	工学3年・院生	1から数万円	荒木功人(工学)

※各学部後援会より補助があるプログラムもありますので、詳しくは所属学部事務室にお問い合わせください。

平成24年度 学生交流覚書に基づく海外交流協定校との交換留学生受入・派遣実績

担当部局	受入学生数	内訳	派遣学生数	内訳
人文社会科学部	11	韓国 明知大学: 2 韓国 群山大学: 2 フランス ボルドー第3大学: 3 ロシア サンクトペテルブルグ国立文化芸術大学: 2 アイスランド アイスランド大学: 2	5	フランス ボルドー第3大学: 3 ロシア サンクトペテルブルグ国立文化芸術大学: 2
教育学部	17	中国 寧波大学: 4 中国 曲阜師範大学: 3 中国 山東工芸美術学院: 3 中国 西北大学: 2 台湾 高雄師範大学: 3 アメリカ ノースセントラルカレッジ: 2	2	中国 清華大学: 1 イタリア カラーラ大学: 1
工学部	2	中国 新疆農業大学: 1 キルギス キルギス スラブ・ロシア大学: 1	0	
農学部	0		1	中国 吉林農業大学: 1
国際交流センター	0		0	
合計	30		8	

岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧

平成24年度

	派遣先	派遣日程	交流者数	派遣留学生数	出身地別人数	交流の内容
1	21世紀日中東北の会(盛岡市)	4月7日	30名	3名	中国(2)、韓国(1)	フィールドワーク
2	環境緑化まつり(盛岡市)	4月27日～29日	100名	6名	マレーシア(6)	異文化交流
3	地球市民の会(盛岡市)	5月3日	100名	30名	中国、アメリカ、ロシア、フランス、韓国、タイ、タンザニア、ブルキナファソ 他	文化体験
4	ふじ丸会(盛岡市)	5月6日	80名	9名	中国(3)、韓国(3)、アメリカ(1)、フランス(1)、ロシア(1)	被災者との交流
5	小岩井農牧(株)(雫石町)	5月19日	4名	1名	アメリカ(1)	ガイド通訳
6	AVIS 仕舞の会(盛岡市)	5月20日	30名	17名	中国(8)、台湾(2)、韓国(4)、フランス(3)	文化体験
7	松園シルバードックス男声合唱団(盛岡市)	5月28日	26名	1名	台湾(1)	文化体験
8	株式会社 ネクスト(盛岡市)	6月14日	1名	1名	ミャンマー(1)	異文化交流
9	世界の屋台村(大槌町)	6月23日	700名	25名	中国、ウイグル、ベトナム、マレーシア、タンザニア、ブルキナファソ、ボツワナ	被災者との交流、異文化交流
10	アジアの屋台村&外国人のど自慢(盛岡市)	7月7日	多数	35名	中国、フランス、アメリカ、アイスランド	異文化交流
11	青年会議所・モリウオーカー(盛岡市)	7月14日	多数	7名	中国(3)、フランス(2)、アメリカ(1)、ベトナム(1)	文化体験、異文化交流
12	あわしま・conseil祭(盛岡市)	7月14日	多数	17名	中国(6)、韓国(3)、台湾(2)、タイ(3)、アメリカ(1)、タンザニア(1)、ボツワナ(1)	文化体験、異文化交流
13	なかの保育園(盛岡市)	7月21日	多数	3名	中国(1)、フランス(1)、タンザニア(1)	異文化交流
14	AVIS 茶道体験(盛岡市)	7月21日	15名	9名	中国(4)、ロシア(3)、フランス(1)、マレーシア(1)	文化体験
15	平泉調査(平泉町)	7月21日・28日	不明	8名	中国(3)、台湾(3)、モンゴル(2)	調査協力
16	何でもやろう会(盛岡市)	8月5日	30名	20名	中国(10)、韓国(2)、台湾(2)、アメリカ(2)、ロシア(1)、フランス(1)、ネパール(1)、モンゴル(1)、タンザニア(1)	文化体験
17	なかの保育園(盛岡市)	8月10日	60名	3名	中国(1)、タンザニア(1)、ボツワナ(1)	異文化交流
18	滝沢村産業まつり(滝沢村)	8月11日・12日	多数	17名	中国(5)、ウイグル(5)、マレーシア(5)、インドネシア(2)	異文化交流
19	盛岡市環境部(盛岡市)	8月23日	—	2名	中国(1)、韓国(1)	翻訳
20	二戸まつり(二戸市)	9月8日	多数	3名	中国(2)、マレーシア(1)	文化体験
21	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	9月11日	21名	1名	タイ(1)	異文化交流、言語教育
22	盛岡八幡宮秋大祭(盛岡市)	9月15日	多数	14名	中国(8)、韓国(3)、台湾(2)、マレーシア(1)	文化体験

23	なかの保育園(盛岡市)	9月21日	60名	3名	中国(2)、韓国(1)	異文化交流
24	NPO善隣館(盛岡市)	10月より毎週火曜	4名	2名	フランス(2)	言語教育
25	クリーズ外国語教室(盛岡市)	10月より不定期	各回約10名	6名	中国(3)、エジプト(1)、ベトナム(1)	異文化交流、言語教育
26	盛岡市市民部(盛岡市)	10月1日	—	1名	中国(1)	翻訳
27	盛岡青年会議所(盛岡市)	10月5日・6日	60名	11名	中国(11)	異文化交流
28	滝沢村教育委員会国際交流講座(滝沢村)	10月6日～11月10日の毎週土曜	5名	2名	台湾(2)	異文化交流、文化体験
29	ふじ丸会(盛岡市)	10月14日	100名	3名	ウイグル(1)、モンゴル(1)、マレーシア(1)	被災者との交流
30	ホテル東日本(盛岡市)	10月22日	150名	4名	中国(1)、ウイグル(2)、モンゴル(1)	文化体験
31	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	10月23日	59名	3名	中国(3)	異文化交流、言語教育
32	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	10月23日	40名	2名	韓国(2)	異文化交流、言語教育
33	地球市民の会(盛岡市)	11月10日	不明	36名	中国(12)、台湾(1)、アイスランド(2)、ロシア(3)、ソロモン(1)、タイ(1)、フランス(2)、ベトナム(10)、ブラジル(1) 他	文化体験
34	北上生涯学習支援センター(北上市)	11月11日	多数	3名	マレーシア(3)	異文化交流
35	盛岡女子高等学校(盛岡市)	11月13日	162	6名	中国(1)、バングラデシュ(1)、マレーシア(1)、ベトナム(1)、韓国(1)、タイ(1)	異文化交流、言語教育
36	なかの保育園(盛岡市)	11月15日	60名	3名	中国(2)、ロシア(1)	異文化交流
37	English Camp(盛岡市)	11月17日・18日	19名	7名(アールム大学)	アメリカ(7)	異文化交流、言語教育
38	北松園老人福祉センター(盛岡市)	11月18日	100名	1名	モンゴル(1)	異文化交流、文化体験
39	岩手県国際交流協会 ワン・ワールド・フェスタ(盛岡市)	11月18日	多数	19名	中国(3)、バングラデシュ(3)、フランス(2)、ソロモン(1)、リトアニア(1)、エジプト(1) 他	異文化交流、言語教育
40	ヒッポファミリークラブ・タイ料理の会(盛岡市)	11月22日	20名	4名	タイ(2)、中国(1)、韓国(1)	異文化交流、文化体験
41	ふじ丸会(盛岡市)	11月25日	150名	6名	中国(4)、モンゴル(1)、韓国(1)	被災者との交流
42	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	11月27日	45名	2名	中国(2)	異文化交流、言語教育
43	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	11月29日	53名	1名	タイ(1)	異文化交流、言語教育
44	NPO善隣館(盛岡市)	11月30日	141名	8名	モンゴル(1)、アイスランド(2)、リトアニア(1)、カレン(1)、エジプト(1)、アメリカ(1)、マレーシア(1)	言語教育
45	なかの保育園(盛岡市)	11月30日	60名	3名	中国(3)	異文化交流
46	岩手日露協会 ヨールカ祭(盛岡市)	12月7日	50名	14名	ロシア(3)、中国(6)、韓国(4)、ベトナム(1)	異文化交流、文化体験
47	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	12月7日	21名	2名	アイスランド(2)	異文化交流、言語教育

48	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	12月7日	58名	2名	アイスランド(2)	異文化交流、言語教育
49	ヒップファミリークラブ・わいわい交流パーティクラブ(盛岡市)	12月8日	60名	14名	中国(5)、韓国(3)、台湾(1)、タイ(2)、ソロモン(1)、リトアニア(1)	異文化交流
50	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	12月11日	44名	1名	フランス(1)	異文化交流、言語教育
51	なかの保育園(盛岡市)	12月20日	60名	3名	中国(3)	異文化交流
52	下太田保育園(盛岡市)	12月21日	130名	1名	バングラデシュ(1)	異文化交流
53	留学生と市民の交流会(盛岡市)	12月22日	80名	18名	中国(4)、台湾(1)、韓国(2)、ロシア(3)、アメリカ(2)、アイスランド(1)、フランス(2)、リトアニア(1)、タイ(2)	異文化交流
54	久昌寺保育園(盛岡市)	12月25日	102名	1名	アメリカ(1)	異文化交流
55	牧の林すずの音保育園(滝沢村)	1月7日	131名	3名	中国(1)、バングラデシュ(1)、ロシア(1)	異文化交流、文化体験
56	いわて青年国際塾(盛岡市)	1月8日・9日	40名	5名	バングラデシュ(2)、エジプト(1)、リトアニア(1)、ソロモン(1)	異文化交流、言語教育
57	久昌寺保育園(盛岡市)	1月15日	57名	5名	アメリカ(1)、中国(1)、タイ(1)、ベトナム(1)、マレーシア(1)	異文化交流、文化体験
58	岩手大学教育学部附属特別支援学校(盛岡市)	1月18日	27名	9名	バングラデシュ(1)、マレーシア(1)、中国(2)、ベトナム(2)、タイ(1)、韓国(1)	異文化交流、文化体験
59	麗扇会(盛岡市)	1月27日	50名	4名	ロシア(3)、中国(1)	文化体験
60	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	2月6日	58名	2名	アイスランド(2)	異文化交流、言語教育
61	なでしこ保育園(滝沢村)	2月8日	19名	3名	中国(1)、バングラデシュ(1)、ミャンマー(1)	異文化交流、言語教育
62	春節祝賀会(盛岡市)	2月9日	320名	100名	中国(70)、フランス、アメリカ、タイ、アイスランド、ソロモン、リトアニア 他	異文化交流
63	民族衣装文化普及協会(盛岡市)	2月16日	100名	7名	ロシア(3)、中国(4)	文化体験
64	盛岡市立河北児童センター(盛岡市)	2月23日	30名	2名	ロシア(2)	異文化交流、文化体験
65	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	2月28日	21名	1名	ブラジル(1)	異文化交流、言語教育
66	花泉国際コンサート(花泉町)	3月3日	50名	6名	中国(4)、ロシア(2)	文化体験
67	灯火の祈り(盛岡市)	3月10日	多数	9名	中国(6)、バングラデシュ(1)、ソロモン(1)、アメリカ(1)	被災者との交流

平成 24 年度岩手大学創立50周年記念事業実行委員会奨学金実施状況報告

1. 各事業派遣実績

1.1 国際ボランティア等参加者支援事業

年度	参加者 総数	内訳(内数)					50周年記念奨学金			
		国際 ボランティア	エコ ボランティア	ボランティア & ホームステイ	アジア ボランティア	ティーチャー アシスタント in USA	申請者	実際の 参加者	奨学金 採択者	支出金額
H21	19	12	6	1			10	8	6	¥360,000
H22	12	5	0	7			13	7	6	¥360,000
H23	5	2	3	0			10	5	5	¥300,000
H24	10	6	0	1	2	1	11	8	7	¥420,000

1.2 海外留学派遣支援事業

年度	学生交流協定に基づく 派遣学生数	奨学金受給者(内数)			50 周年奨学金 支出金額
		JASSO 奨学金	50 周年奨学金 (欧米)	50 周年奨学金 (アジア)	
H21	10	1	3	0	¥360,000
H22	9	1	5	2	¥780,000
H23	11	1	5	1	¥690,000
H24	8	2	1	0	¥120,000

2. 平成 24 年度各事業の実施状況

(1) 国際ボランティア等参加者支援事業

- ①支援対象及び人数: 岩手大学に所属する学部生及び大学院生 9名程度
- ②支援金額: 一人当たり6万円、合計54万円程度
- ③実施報告: 帰国後、1ヶ月以内に報告書を提出するとともに、「国際週間」の一環として、2012年11月中旬にポスター展示報告を開催。また、募集説明会の際に参加学生の体験談を実施。

(2) 海外派遣留学支援事業

- ①支援対象及び人数:
岩手大学に所属する学部生及び大学院生 7名程度
(欧米諸国及びアジア諸国の配分については、採択者の割合及び予算を勘案し決定)
- ②支援金額: 欧米諸国(米国、カナダ、フランス、ロシア等)への留学: 12万円
アジア諸国(中国、韓国、タイ等)への留学: 9万円
- ③実施報告: 帰国後、1ヶ月以内に報告書を提出するとともに、「国際週間」の一環として、2012年11月中旬にポスター展示報告を開催。また、募集説明会の際に参加学生の体験談を実施。

岩手大学国際交流センター報告第9号

Bulletin of Iwate University International Center Vol. 9

発 行：岩手大学 国際交流センター
岩手県盛岡市上田3丁目18-34
電話：019-621-6927

発行年月：平成26年1月

Bulletin of Iwate University International Center



Iwate University International Center